

バックアップ &
リストアツール

NetStor Backup for Windows NetStor Backup for Linux NetStor Restore for Windows

ユーザーズマニュアル 第10版
2020/7/27



■ 本書は以下のソフトウェアの対応版です。

バックアップ	ソフトウェア名称	ソフトウェアバージョン	NASツールバージョン
NetStor Backup for Windows ※1	Ver.2.0.1.0 以降	WS IoT 2019 for Storage 搭載モデル NAS ツール	Ver.7.00 以降
		WSS2016 搭載モデル NAS 管理ツール	
NetStor Backup for Linux	Ver.3.0.4 以降	NSB-7A/5A シリーズ	Ver.4.3.6.1300 以降

バックアップ	ソフトウェア名称	ソフトウェアバージョン
	NetStor Restore for Windows	Ver.1.1.1 以降

※1 NetStor Backup for Windows は、NAS ツール（NAS 管理ツール）に包括されています。

●このマニュアルで使われている記号

記号	意味
 注意	操作上で注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、正常に動作できない場合があります。注意してください。
 MEMO	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。

ご注意

- 本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- 本製品に付随するドライバー、ソフトウェア等を逆アセンブル、逆コンパイルまたはその他リバースエンジニアリングすること、弊社に無断でホームページ、FTP サイトに登録するなどの行為を禁止させていただきます。
- このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製 / 転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、エレコム・ネットワーク法人サポートまでご連絡ください。
- 本製品の日本国外での使用は禁じられています。ご利用いただけません。日本国外での使用による結果について弊社は、一切の責任を負いません。また本製品について海外での（海外からの）保守、サポートは行っておりません。
- 本製品を使用した結果によるお客様のデータの消失、破損など他への影響につきましては、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。重要なデータについてはあらかじめバックアップするようにお願いいたします。
- Microsoft、Windows は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名 / 社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および TM は省略させていただきました。
- 本マニュアルは最新バージョンを基に記載しています。他のバージョンでは表記や機能が異なる場合があります。

本ツールの免責事項について

免責事項

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

- ・ 弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
- ・ 本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
- ・ 本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

サポートサービスについて

下記のエレコム法人様サポートセンターへお電話でご連絡ください。サポート情報、製品情報につきましては、インターネットでも提供しております。

エレコム法人様サポートセンター（ナビダイヤル）

TEL：0570-070-040

受付時間：9:00～12:00、13:00～18:00 月曜日～土曜日

※祝祭日、夏季・年末年始休業日を除く

※PHS・一部のIP電話からはご利用いただけません。お手数ですがNTTの固定電話（一般回線）や携帯電話からおかけくださいますようお願いいたします。

日本以外でご購入されたお客様は、購入国の販売店舗へお問い合わせください。エレコム株式会社は、日本以外の国でのご購入・ご使用による問い合わせ・サポート対応は致しかねます。また、日本語以外の言語でのサポートは致しかねます。商品交換は保証規定に沿って対応致しますが、日本以外からの商品交換は対応致しかねます。

A customer who purchases outside Japan should contact the local retailer in the country of purchase for enquiries. In "ELECOM CO., LTD. (Japan)", no customer support is available for enquiries about purchases or usage in/from any countries other than Japan. Also, no foreign language other than Japanese is available. Replacements will be made under stipulation of the Elecom warranty, but are not available from outside of Japan.

エレコム法人様サポートセンターにお電話される前に

サポートページで「よくある質問」をご確認ください。

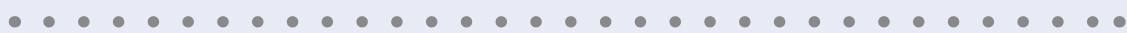
「よくある質問」をお読みいただいても解決しない場合は、以下をご用意のうえ、お電話をお願いします。

- ・ 製品の型番
- ・ ご質問内容（症状、エラーメッセージ、やりたいこと、お困りのこと）

もくじ

Chapter 1	説明編	5
1.1	概要.....	6
Chapter 2	バックアップ編「NetStor Backup for Windows」	7
2.1	インストール方法.....	8
2.2	起動方法	9
2.3	バックアップタスクを追加する.....	10
■	クラウドサービス別のバックアップ設定方法	14
•	Amazon S3 の場合.....	14
•	Microsoft Azure の場合.....	15
•	Box の場合	16
■	ローカルバックアップの設定方法.....	20
2.4	バックアップ設定の制限事項.....	21
2.5	メイン画面について.....	22
2.6	バージョンの確認方法.....	24
Chapter 3	バックアップ編「NetStor Backup for Linux」	25
3.1	インストール方法.....	26
3.2	起動方法	28
3.3	バックアップタスクを追加する.....	29
■	クラウドサービス別のバックアップ設定方法	33
•	Amazon S3 の場合.....	33
•	Microsoft Azure の場合.....	34
•	Box の場合	35
■	ローカルバックアップの設定方法.....	39
■	ローカルレプリケーションの設定方法.....	39
■	リモートバックアップの設定方法	40
■	リモートレプリケーションの設定方法	41
3.4	バックアップ設定の制限事項.....	42
3.5	メイン画面について.....	46
3.6	バージョンの確認方法.....	48
Chapter 4	リストア編「NetStor Restore for Windows」	49
4.1	動作環境	50
4.2	インストール方法.....	51
4.3	起動方法	52
4.4	データをダウンロードする.....	53
4.5	メイン画面について.....	57
4.6	アンインストール方法	58
4.7	バージョンの確認方法.....	59

Chapter 1



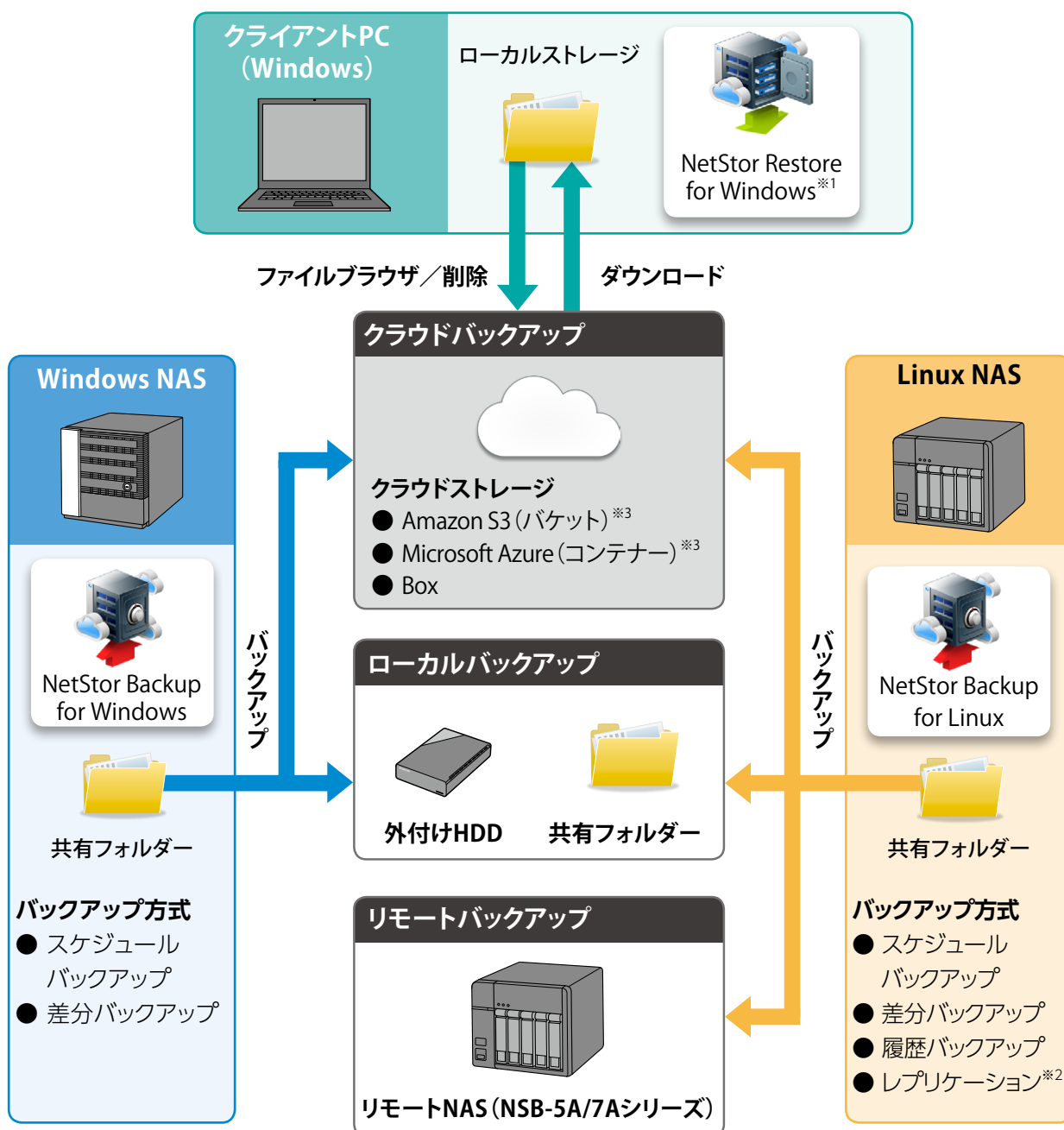
説明編

1.1 概要

本ソフトウェアを利用すると、エレコム製NAS（以下NAS）のデータのバックアップを円滑に行うことができます。

バックアップ先として、クラウドストレージサービス、外付けHDD等のローカルバックアップ、リモートバックアップを選択できます。

また、NetStor Restore for Windowsを使用することで、クラウドストレージにバックアップしたデータをクライアントPCから閲覧や削除、ダウンロードができるようになります。



※1 NetStor Restore for Windows は Windows NAS 内にもインストール可能です。その場合はリモートデスクトップで操作します。

※2 レプリケーションはローカルバックアップ、リモートバックアップのみ対応です。

※3 「バケット」、「コンテナ」ともクラウドストレージ上にファイルやフォルダーを置いておくための入れ物です。それぞれのサービスにより名称が異なります。Amazon S3→「バケット」、Microsoft Azure→「コンテナ」

Chapter 2

バックアップ編

「NetStor Backup for Windows」

「NetStor Backup」を使うと、NAS上にあるフォルダーを簡単にクラウドストレージやローカルストレージなどにバックアップすることができます。
また、バックアップは、決められた日時に定期的に行うように設定できます。

2.1

インストール方法

NetStor Backup for WindowsはあらかじめNAS内のWindows Storage Serverシステムにインストールされています。「2.2 起動方法」(9 ページ)を参照して本ソフトウェアを起動してください。

2.2 起動方法

クライアントPCなどからリモートデスクトップ接続などで起動してください。

NAS内のWindows Storage Serverのスタートメニューから
[すべてのアプリ] → [Elecom] → [NetStor Backup for Windows] の
順でクリックします。



NetStor Backupが起動し、メイン画面が表示されます。



MEMO

クラウドストレージサービスにバックアップする場合は、事前にクラウドストレージサービスの契約（アカウント作成等）をお願いします。

クラウドストレージサービスの通信料金、規約等につきましては、対象クラウドストレージサービスのホームページをご確認ください。

[対応クラウドサービス]

- Amazon S3
<https://aws.amazon.com/jp/s3/>
- Microsoft Azure
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/>
- Box
<https://www.box.com/ja-jp/home>

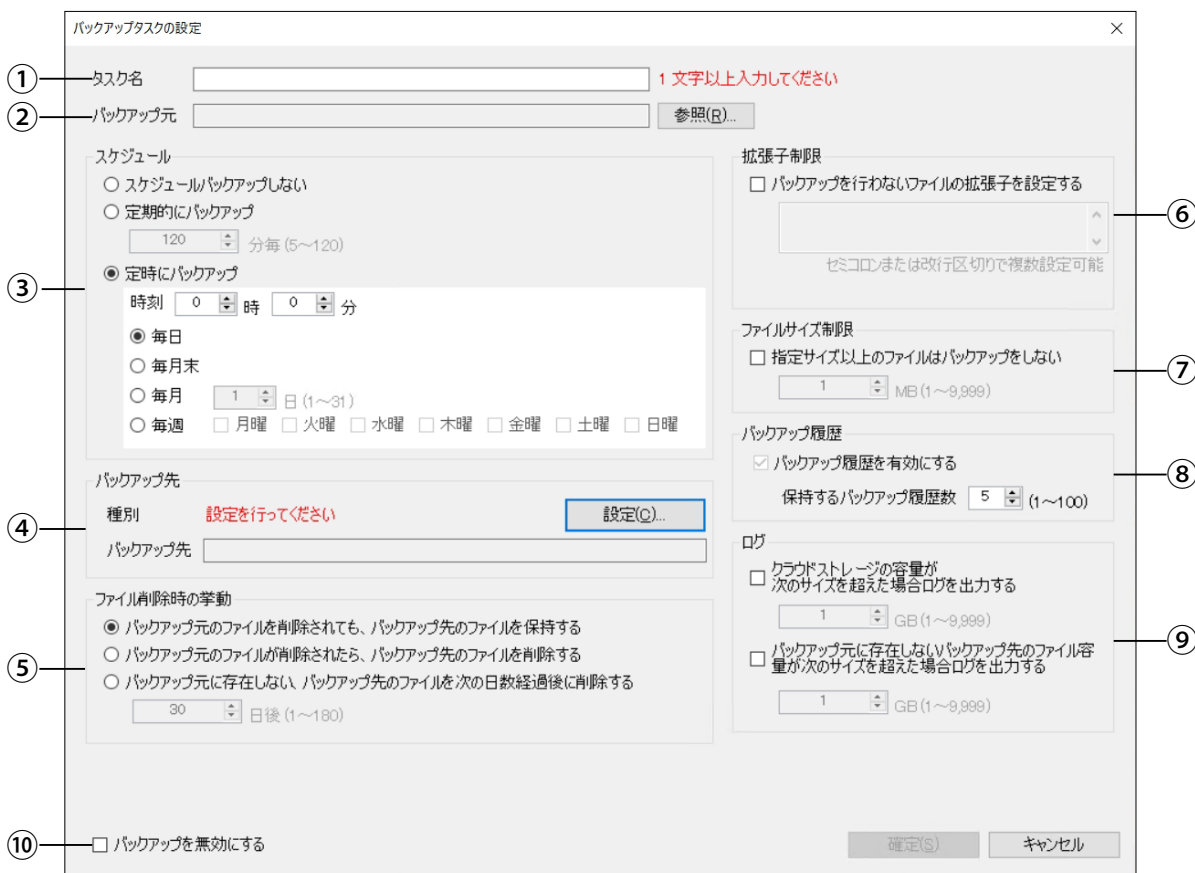
2.3

バックアップタスクを追加する

1 メイン画面の「追加」をクリックします。



2 「バックアップタスクの設定」画面が表示されますので、各項目を設定します。



① タスク名	わかりやすい名前を1～32文字(半角または全角)で入力します。(入力必須)
② バックアップ元	[参照]をクリックして、バックアップするフォルダーを選択します。

③ スケジュール	バックアップのスケジュールを設定します。 <table border="1"> <tr> <td>スケジュールバックアップしない</td><td>手動でバックアップする場合に選択します。</td></tr> <tr> <td>定期的にバックアップ</td><td>短い間隔でバックアップする場合に選択します。間隔は5～120分の範囲内で1分単位で設定できます。</td></tr> <tr> <td>定時にバックアップ</td><td>決められた日時でバックアップします。</td></tr> </table>	スケジュールバックアップしない	手動でバックアップする場合に選択します。	定期的にバックアップ	短い間隔でバックアップする場合に選択します。間隔は5～120分の範囲内で1分単位で設定できます。	定時にバックアップ	決められた日時でバックアップします。		
スケジュールバックアップしない	手動でバックアップする場合に選択します。								
定期的にバックアップ	短い間隔でバックアップする場合に選択します。間隔は5～120分の範囲内で1分単位で設定できます。								
定時にバックアップ	決められた日時でバックアップします。								
④ バックアップ先※ * 入力時に必要なクラウドサービス情報は、クラウドサービス契約時に忘れずにメモしておいてください。	バックアップ先となるクラウドストレージ上またはローカルフォルダーの場所を設定します。 [設定]をクリックすると、設定画面が表示されますのでバックアップ種別を選択し、各情報を入力します。 ● 設定方法は各項目のページを参照してください。 <table border="1"> <tr> <td>クラウドストレージにバックアップするとき</td><td>14 ページ</td></tr> <tr> <td>ローカルバックアップするとき</td><td>20 ページ</td></tr> </table> ● バックアップデータは、選択したバケットまたはコンテナ内に、バックアップするフォルダーと同名のフォルダー名で格納されます。 <table border="1"> <tr> <td>アカウント名</td><td>わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます(100文字以内)。ただし、以下の文字は使用できません。 (¥ / : * ? " < >) プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。</td></tr> <tr> <td>削除</td><td>選択したアカウントを削除します。</td></tr> </table>	クラウドストレージにバックアップするとき	14 ページ	ローカルバックアップするとき	20 ページ	アカウント名	わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます(100文字以内)。ただし、以下の文字は使用できません。 (¥ / : * ? " < >) プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。	削除	選択したアカウントを削除します。
クラウドストレージにバックアップするとき	14 ページ								
ローカルバックアップするとき	20 ページ								
アカウント名	わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます(100文字以内)。ただし、以下の文字は使用できません。 (¥ / : * ? " < >) プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。								
削除	選択したアカウントを削除します。								
⑤ ファイル削除時の挙動	バックアップ元のファイルが削除されたときのファイルの扱い方を設定します。 <table border="1"> <tr> <td>バックアップ元のファイルを削除されても、バックアップ先のファイルを保持する</td><td>バックアップ先のファイルを削除せずに残します。</td></tr> <tr> <td>バックアップ元のファイルが削除されたら、バックアップ先のファイルを削除する</td><td>バックアップ先のファイルも削除します。</td></tr> <tr> <td>バックアップ元に存在しない、バックアップ先のファイルを次の日数経過後に削除する</td><td>ファイルの削除後、設定した日数が経過したら、バックアップ先のファイルも削除します。日数は1～180日の範囲で設定できます。</td></tr> </table>	バックアップ元のファイルを削除されても、バックアップ先のファイルを保持する	バックアップ先のファイルを削除せずに残します。	バックアップ元のファイルが削除されたら、バックアップ先のファイルを削除する	バックアップ先のファイルも削除します。	バックアップ元に存在しない、バックアップ先のファイルを次の日数経過後に削除する	ファイルの削除後、設定した日数が経過したら、バックアップ先のファイルも削除します。日数は1～180日の範囲で設定できます。		
バックアップ元のファイルを削除されても、バックアップ先のファイルを保持する	バックアップ先のファイルを削除せずに残します。								
バックアップ元のファイルが削除されたら、バックアップ先のファイルを削除する	バックアップ先のファイルも削除します。								
バックアップ元に存在しない、バックアップ先のファイルを次の日数経過後に削除する	ファイルの削除後、設定した日数が経過したら、バックアップ先のファイルも削除します。日数は1～180日の範囲で設定できます。								
⑥ 拡張子制限	チェックすると、指定した拡張子のファイルがバックアップされなくなります。すでにバックアップされているファイルは削除されません。 指定は以下に行います。 ● 「.」(ピリオド)は不要です。 ● 大文字、小文字は区別しません。 ● 対象はファイル名のみです。 ● 「;」(セミコロン)または改行を区切り文字にすることで複数設定することができます。 (例) <table border="1"> <tr> <td>セミコロンの場合</td><td>log;bak;DS_Store</td></tr> <tr> <td>改行の場合</td><td>log bak DS_Store</td></tr> </table>	セミコロンの場合	log;bak;DS_Store	改行の場合	log bak DS_Store				
セミコロンの場合	log;bak;DS_Store								
改行の場合	log bak DS_Store								
⑦ ファイルサイズ制限	チェックすると、設定したサイズ以上のファイルはバックアップされなくなります。 ※ ここで設定したサイズ以下のファイルであっても、バックアップ先で定められている上限サイズを超えるファイルはバックアップされません。 サイズは1～9999MBの範囲で設定できます。								

⑧ バックアップ履歴	バックアップ履歴の設定を行います。 「バックアップ先」の設定が以下の場合、履歴を残すことはできません。 ● バックアップの種別が「Box」で「バックアップ方向」が「ダウンロード」に設定されている場合 ● バックアップの種別が「ローカルバックアップ」に設定されている場合 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="512 353 767 584">バックアップ履歴を有効にする</td><td data-bbox="767 353 1457 584"> チェックすると、ファイルをバックアップするときに、以前のバージョンのファイルを指定世代分保持します。 ● Boxをアップロード先に指定している場合、「バックアップ履歴を有効にする」のチェックを外しても、NetStorBackupでは管理しませんが、Box自体の機能で履歴が残ります。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="512 584 767 857">保持するバックアップ履歴数</td><td data-bbox="767 584 1457 857"> 以前のバージョンのファイルを何世代分保持するか設定します。 1～100の範囲で設定できます。 保持したファイルは後で復元することができます。 ● 「1」に設定すると、以前のバージョンは残しません。 ● 「バックアップ先」に「ローカルバックアップ」が指定されている場合は、履歴を残すことはできません。 </td></tr> </table>	バックアップ履歴を有効にする	チェックすると、ファイルをバックアップするときに、以前のバージョンのファイルを指定世代分保持します。 ● Boxをアップロード先に指定している場合、「バックアップ履歴を有効にする」のチェックを外しても、NetStorBackupでは管理しませんが、Box自体の機能で履歴が残ります。	保持するバックアップ履歴数	以前のバージョンのファイルを何世代分保持するか設定します。 1～100の範囲で設定できます。 保持したファイルは後で復元することができます。 ● 「1」に設定すると、以前のバージョンは残しません。 ● 「バックアップ先」に「ローカルバックアップ」が指定されている場合は、履歴を残すことはできません。
バックアップ履歴を有効にする	チェックすると、ファイルをバックアップするときに、以前のバージョンのファイルを指定世代分保持します。 ● Boxをアップロード先に指定している場合、「バックアップ履歴を有効にする」のチェックを外しても、NetStorBackupでは管理しませんが、Box自体の機能で履歴が残ります。				
保持するバックアップ履歴数	以前のバージョンのファイルを何世代分保持するか設定します。 1～100の範囲で設定できます。 保持したファイルは後で復元することができます。 ● 「1」に設定すると、以前のバージョンは残しません。 ● 「バックアップ先」に「ローカルバックアップ」が指定されている場合は、履歴を残すことはできません。				
⑨ ログ	指定した条件になったときに、イベントログ (for Windowsの場合) またはシステムログ (for Linuxの場合) を出力することができます。 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="512 954 922 1115">クラウドサービスの使用容量が次のサイズを超えた場合ログを出力する</td><td data-bbox="922 954 1457 1115"> チェックすると、バックアップ先のバケットまたはコンテナの容量が、設定したサイズを超えたときにログを出力します。 サイズは1～9999GBの範囲で設定できます。 </td></tr> <tr> <td data-bbox="512 1115 922 1279">ローカルに存在しないクラウド上のファイル容量が次のサイズを超えた場合ログを出力する</td><td data-bbox="922 1115 1457 1279"> バックアップ先フォルダーに、ローカルに存在しないファイルが増えてきたときにログを出力します。 サイズは1～9999GBの範囲で設定できます。 </td></tr> </table>	クラウドサービスの使用容量が次のサイズを超えた場合ログを出力する	チェックすると、バックアップ先のバケットまたはコンテナの容量が、設定したサイズを超えたときにログを出力します。 サイズは1～9999GBの範囲で設定できます。	ローカルに存在しないクラウド上のファイル容量が次のサイズを超えた場合ログを出力する	バックアップ先フォルダーに、ローカルに存在しないファイルが増えてきたときにログを出力します。 サイズは1～9999GBの範囲で設定できます。
クラウドサービスの使用容量が次のサイズを超えた場合ログを出力する	チェックすると、バックアップ先のバケットまたはコンテナの容量が、設定したサイズを超えたときにログを出力します。 サイズは1～9999GBの範囲で設定できます。				
ローカルに存在しないクラウド上のファイル容量が次のサイズを超えた場合ログを出力する	バックアップ先フォルダーに、ローカルに存在しないファイルが増えてきたときにログを出力します。 サイズは1～9999GBの範囲で設定できます。				
⑩ バックアップを無効にする	チェックすると、設定中のバックアップを実行しないようにします。 設定した内容は保存されます。				

3 設定が終わったら、[確定]をクリックします。

バックアップタスクの設定

タスク名: バックアップタスク

バックアップ元: C:\Users\%username%\documents\%backupdata% 参照(R)...

スケジュール

☐ スケジュールがバックアップしない

☐ 定期的にバックアップ

120 分毎 (5~120)

☒ 定時にバックアップ

時刻: 4 時 0 分

☒ 毎日

☐ 毎月末

☐ 毎月 1 日 (1~31)

☐ 毎週 ☐ 月曜 ☐ 火曜 ☐ 水曜 ☐ 木曜 ☐ 金曜 ☐ 土曜 ☐ 日曜

バックアップ先

種別: Box 設定(C)...

バックアップ先: backup

ファイル削除時の挙動

☒ バックアップ元のファイルを削除しても、バックアップ先のファイルを保持する

☐ バックアップ元のファイルが削除されたら、バックアップ先のファイルを削除する

☐ バックアップ元に存在しない、バックアップ先のファイルを次の日数経過後に削除する

30 日後 (1~180)

拡張子制限

☐ バックアップを行わないファイルの拡張子を設定する

ファイルサイズ制限

☐ 指定サイズ以上のファイルはバックアップをしない

1 MB (1~9,999)

バックアップ履歴

☒ バックアップ履歴を有効にする

保持するバックアップ履歴数: 5 (1~100)

ログ

☐ クラウドストレージの容量が次のサイズを超えた場合ログを出力する

1 GB (1~9,999)

☐ バックアップ元に存在しないバックアップ先のファイル容量が次のサイズを超えた場合ログを出力する

1 GB (1~9,999)

☐ バックアップを無効にする

確定(S) キャンセル

メイン画面に作成したタスクが追加され、指定した時間になると自動的にバックアップ処理がおこなわれます。

NetStor Backup for Windows

バックアップタスク一覧 設定(S)...

タスク名	スケジュール	時刻	状態	バックアップ元
バックアップタスク	毎日	00:00	未実行	C:\Users\%UserName%\Documents\%

追加(A)...

コピー(C)...

削除(D)

編集(E)...

開始(B)

停止(T)

MEMO

- 初回は全ファイルバックアップ、次回以降は差分バックアップが行なわれます。
- ローカルバックアップ時にバックアップ先の空き領域が足りなくなった場合は、エラーとなってバックアップが中断されます。

■ クラウドサービス別のバックアップ設定方法

Amazon S3 の場合

- ① [Amazon S3]を選択します。

アカウント名

わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます(100文字以内)。

ただし、以下の文字は使用できません。

(¥ / : * ? " < > |)

プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。

- ② [アクセスキーID]と[シークレットアクセスキー]を入力します。

- ③ 画面に[接続テストを行ってください]と表示されますので、[接続テスト]をクリックします。

接続が成功すると、[接続テスト済みです]と表示されます。

- [接続テスト]をクリックした後、[接続テストに失敗しました]と表示される場合は、ストレージ情報に誤りがないか確認してください(接続テストをするときはインターネットに接続されている必要があります)。

- ④ バックアップ先の[バケット名]を入力するか、プルダウンメニューから選択します。

ストレージ上に存在しないバケット名を入力した場合は、ストレージ上に新たに作成されます。



注意

AmazonS3 のバケットは以下の 2 通りの方法で作成できますが、2 の場合は注意が必要です。

1. NetStorBackup からバケットを作成したとき

自動的に先頭に「NSB」が付きますが、NetStorBackup に表示されるバケット名では「NSB」は表示されません。

2. AmazonS3 の管理画面からバケットを作成したとき

バケット名の先頭に「NSB」が付いていないと NetStorBackup に表示されません。

Microsoft Azure の場合

① [Microsoft Azure]を選択します。

設定

アカウント名 削除

種類 ☐ Amazon S3 ☒ Microsoft Azure ☐ Box ☐ ローカルバックアップ

ストレージアカウント名

ストレージアクセスキー

コンテナ名

接続テスト(T)

アカウント名

わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます(100文字以内)。

ただし、以下の文字は使用できません。

(¥ / : * ? " < > |)

プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。

② [ストレージアカウント名]と[ストレージアクセスキー]を入力します。

設定

アカウント名 削除

種類 ☐ Amazon S3 ☒ Microsoft Azure ☐ Box ☐ ローカルバックアップ

② ストレージアカウント名

ストレージアクセスキー

接続テストを行ってください 接続テスト(T) ③

④ コンテナ名

③ 画面に[接続テストを行ってください]と表示されますので、[接続テスト]をクリックします。

接続が成功すると、[接続テスト済みです]と表示されます。

- [接続テスト]をクリックした後、[接続テストに失敗しました]と表示される場合は、ストレージ情報に誤りがないか確認してください(接続テストをするときはインターネットに接続されている必要があります)。

④ バックアップ先の[コンテナ名]を入力するか、プルダウンメニューから選択します。

ストレージ上に存在しないコンテナ名を入力した場合は、ストレージ上に新たに作成されます。

Box の場合

① [Box] を選択します。

アカウント名

わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます(100文字以内)。

ただし、以下の文字は使用できません。

(¥ / : * ? " < > |)

プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。

② [バックアップ方向] を選択します。

アップロード	NASからBoxに対して、ファイルのバックアップを行います。 アップロードタスクの場合、Boxのアカウント権限レベルが「ファイルの編集」が可能である必要があります。 アカウントが「共同所有者」または「編集者」のいずれかでタスクを設定してください。
ダウンロード	BoxからNASに対して、ファイルのバックアップを行います。 ダウンロードタスクの場合、Boxのアカウント権限レベルが「ダウンロード」が可能である必要があります。 アカウントが「共同所有者」または「編集者」「ビューアー/アップローダー」「ビューアー」のいずれかでタスクを設定してください。
双方向同期	「優先度」で設定した順番に従い、アップロードとダウンロードを行います。

③ [双方向同期] を選択した場合、[優先度] を選択します。

NAS優先	以下の順番でバックアップを行います。 ① NASからBoxにアップロード ② BoxからNASにダウンロード
Box優先	以下の順番でバックアップを行います。 ① BoxからNASにダウンロード ② NASからBoxにアップロード

- ④ **[アカウント認証]**をクリックすると、Boxの認証画面が表示されますので、認証情報を入力し、**[承認]**をクリックします。



The image shows the Box account authentication page. At the top is the Box logo. Below it is a heading: "Boxへのアクセスを許可するにはログインしてください". There are two input fields: "メールアドレス" (Email address) and "パスワード" (Password). Below these is a blue button labeled "承認" (Authorize). Underneath the button, there is a link: "シングルサインオン (SSO) を使用する" (Use Single Sign-On (SSO)). At the bottom, there is a link: "パスワードを忘れてしまった場合" (If you forgot your password).

MEMO

Box と連携する場合、バックアップタスクによってはアカウントの権限レベルで実行できるタスクがこととなります。設定するタスクに適応するアカウントで認証を行ってください。

Boxアカウント権限							
バックアップタスク	共同所有者	編集者	ビューアー /アップローダー	プレビューアー /アップローダー	ビューアー	プレビューアー	アップローダー
アップロード	○	○					
ダウンロード	○	○	○		○		

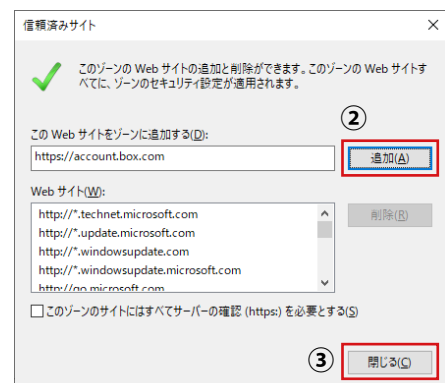
※ 2019/11 月現在の情報です。

認証に成功すると、リモートサーバのWebページが表示され、自動的に閉じられます。その後、**[接続テスト]** ボタンが有効になります。

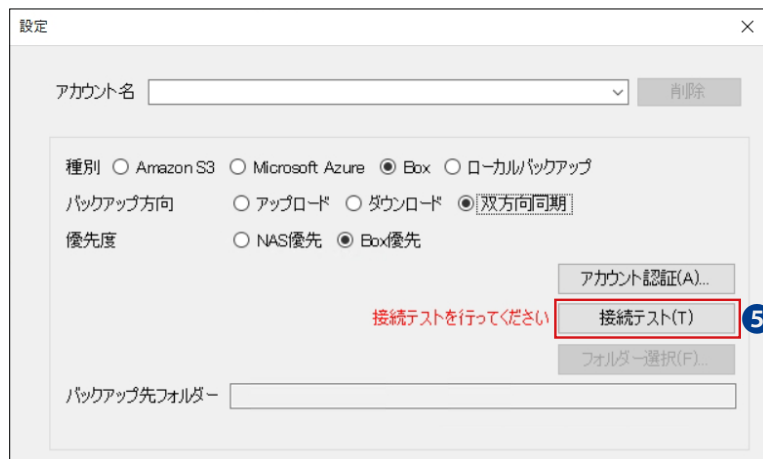


注意

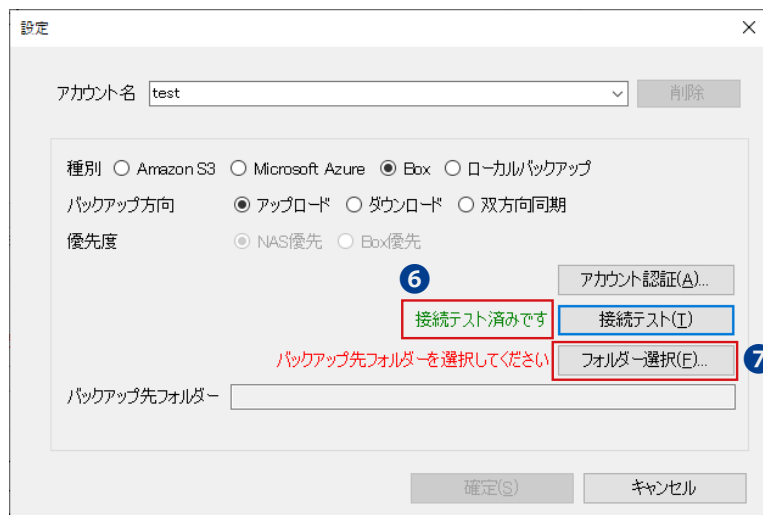
認証ページを開こうとすると、以下の警告メッセージが表示される場合がありますが、セキュリティ上の問題はありません。「追加」ボタンを押して表示された画面でアカウント認証画面の URL を追加してください。



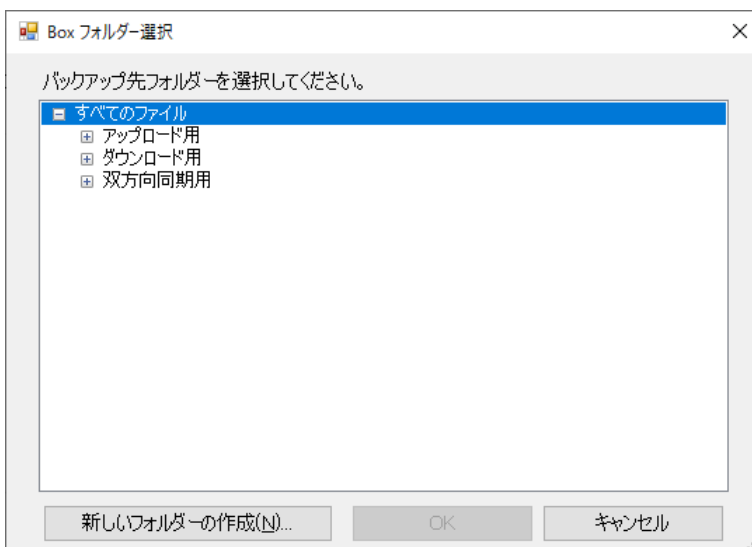
- ⑤ [接続テストを行ってください]と表示されますので、[接続テスト]をクリックします。



- ⑥ 接続が成功すると、[接続テスト済みです]と表示され、バックアップ先のフォルダー選択が可能になります。

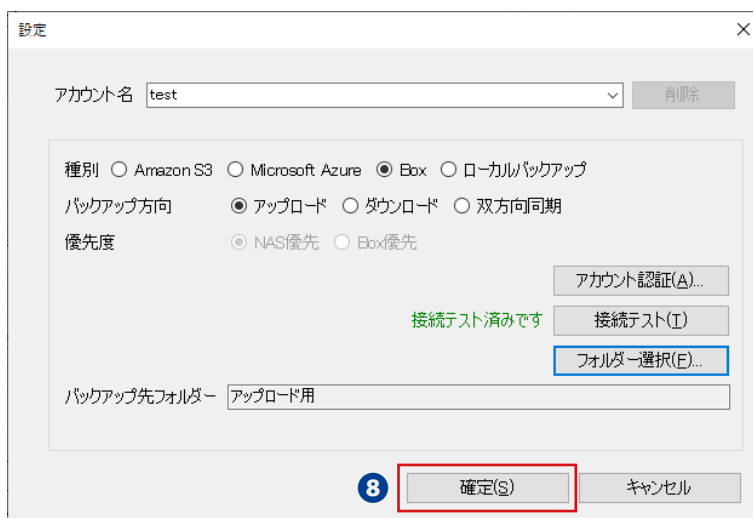


- ⑦ [フォルダー選択]をクリックすると「Boxフォルダー選択」というウィンドウが表示されますので、任意のフォルダーを選択し、[OK]をクリックします。



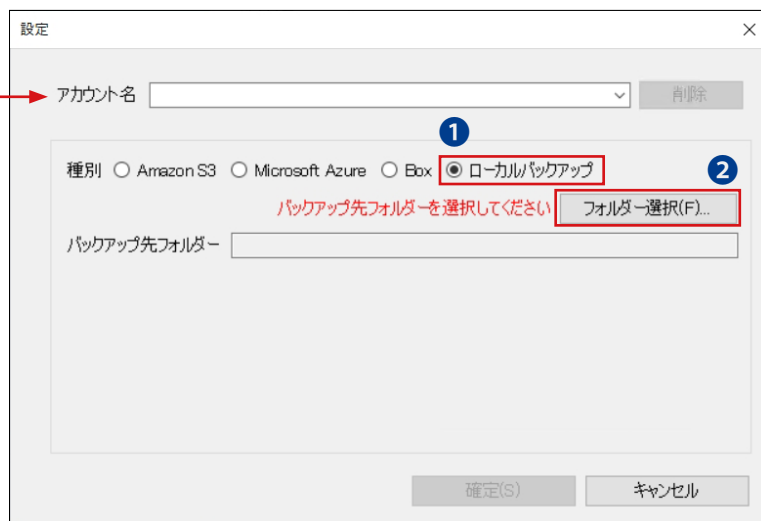
- ストレージ上に新しくフォルダーを作成したい場合は、[新しいフォルダーの作成]をクリックしてください。

- ⑧ [バックアップ先フォルダー]に選択したフォルダー名が表示されていることを確認し、[確定]をクリックします。



■ ローカルバックアップの設定方法

- ① [ローカルバックアップ]を選択します。



アカウント名

わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます(100文字以内)。

ただし、以下の文字は使用できません。

(¥ / : * ? " < > |)

プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。

- ② [フォルダー選択]をクリックし、ローカルにあるフォルダーを選択します。

- ネットワーク上にあるフォルダーは指定できません。
- FAT/FAT32のフォーマット形式はサポートしていません。

2.4

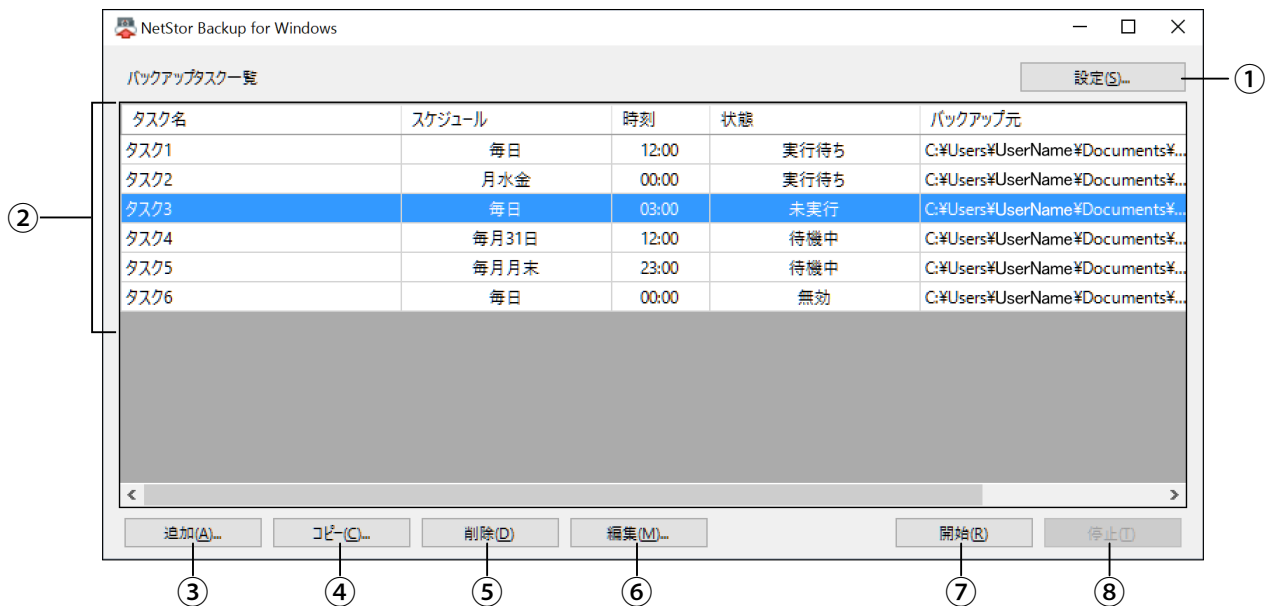
バックアップ設定の制限事項

【クラウドバックアップの制限事項】

- Boxの無料アカウントを使用するときは、必ず「バックアップ履歴を有効にする」のチェックを外してください。
Boxの無料アカウントでは履歴機能が利用できません。
- Boxをアップロード先に指定している場合、「バックアップ履歴を有効にする」のチェックを外しても、NetStorBackupでは管理しませんが、Box自体の機能で履歴が残ります。
- Box側の制限により、一度のバックアップタスクで大量のファイルを移行すると、エラーが発生する場合があります。
一度のバックアップタスクで移行できるファイル数量の上限は、最大50,000ファイルを目安にしてください。

2.5

メイン画面について



各タスク共通の設定を行います。

共通設定

プロセス優先順位
プロセス優先度
通常

同時バックアップ数
同時にバックアップするファイル数
5 (1~10)

プロキシサーバー
☐ プロキシサーバーを使用する(X)
アドレス(E): ポート(I):

☐ 認証情報を使用する(A)
ユーザー名(U):
パスワード(P):

プロキシサーバーを使用する場合は、OSのインターネットオプションにも同じアドレス/ポートでプロキシ設定を行う必要があります。
インターネットオプション表示(O)

※プロキシサーバーの設定を変更した場合はNASを再起動してください。

ログ
イベントログ表示(L)

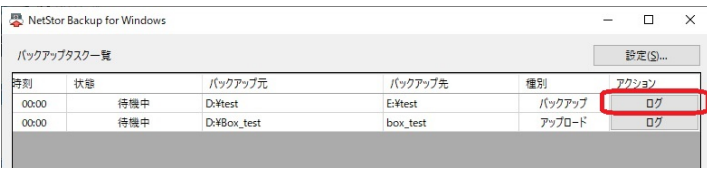
OK キャンセル

① 設定

プロセス優先順位

本ソフトのシステムリソース利用の優先度を以下から設定します。
[高／通常以上／通常(初期値)／通常以下／低]

- 優先度を高くすると、バックアッププロセスに優先的にCPUなどの資源が割り当てられるようになり、逆に低くすると他のプロセスよりも資源の割り当てが少なくなります。システム全体の負荷が高いような場合にもバックアップ処理が優先的に実行されるようにしたい場合などに高くします。バックアッププロセスの負荷が高すぎて他の重要な処理に影響が出ているような場合には低くします。通常は変更の必要はありません。

	同時バックアップ数	クラウドストレージへ同時に並列で転送するファイル数を設定します。 設定できる数は1～10個です。 回線の状態などにもよりますが、バックアップ元に小容量ファイルがたくさんあるような場合、数を増やすことでバックアップが早く終わる可能性があります。 逆にバックアップ元が大容量ファイル中心の場合、同時に転送する数が増えると帯域を分け合うことになるため、1つのファイルのバックアップに時間がかかることになります。 例えば、1GBのファイルが10個あり、帯域をフルに使って平等に分け合い、10分で終了するという前提で比べた場合、 ・同時バックアップ数が「1」のとき → 最初のファイルは1分でバックアップ完了 ・同時バックアップ数が「10」のとき → 最初のファイルは完了まで10分かかります となりますので、順番に確実にバックアップを終えたい場合は、同時バックアップ数を減らす設定をおすすめします。
	プロキシサーバー	プロキシサーバーを使用してクラウドストレージにアクセスする場合は「プロキシサーバーを使用する」にチェックを入れ、アドレスとポートの情報を入力します。 認証情報を使用する場合は「認証情報を使用する」にチェックを入れ、ユーザー名/パスワードを入力します。 MEMO プロキシサーバーを使用する場合は、本製品（NAS）に搭載されたOSのインターネットオプションにも同じアドレスとポートを設定する必要があります。  注意 プロキシサーバーの設定を変更した場合は本製品（NAS）の再起動が必要です。
	ログ	Windowsのイベントログアプリケーションを起動します。
	② タスク一覧	作成したバックアップタスクの一覧が表示されます。 表示エリア右端の[アクション]の[ログ]ボタンをクリックすると、バックアップタスクの結果ログが取得できます。 ファイル名：NetstorBackup_report_XX(バックアップタスクID).log  ※ログ取得機能は本アプリのVer.2.0.1.0からの追加機能です。 ログの取得はVer.2.0.1.0以降で初めて実施したタスクの結果から取得可能です。 結果ログは直前に実施された1回分のバックアップ結果のみです。2回以前のログは取得できません。
③ 追加	タスクを追加作成します。(10 ページ参照)	
④ コピー	選択中のバックアップタスクの内容を元にして、新たなタスクを追加作成します。	
⑤ 削除	選択中のタスクを削除します。	
⑥ 編集	選択中のタスクを編集します。	
⑦ 開始	選択中のタスクをすぐに実行します。	
⑧ 停止	選択中のタスクを停止します。タスクが実行中のときのみクリックすることができます。	

●プロキシサーバーに例外設定が必要な場合は、プロキシサーバーへ以下の情報を設定してください。

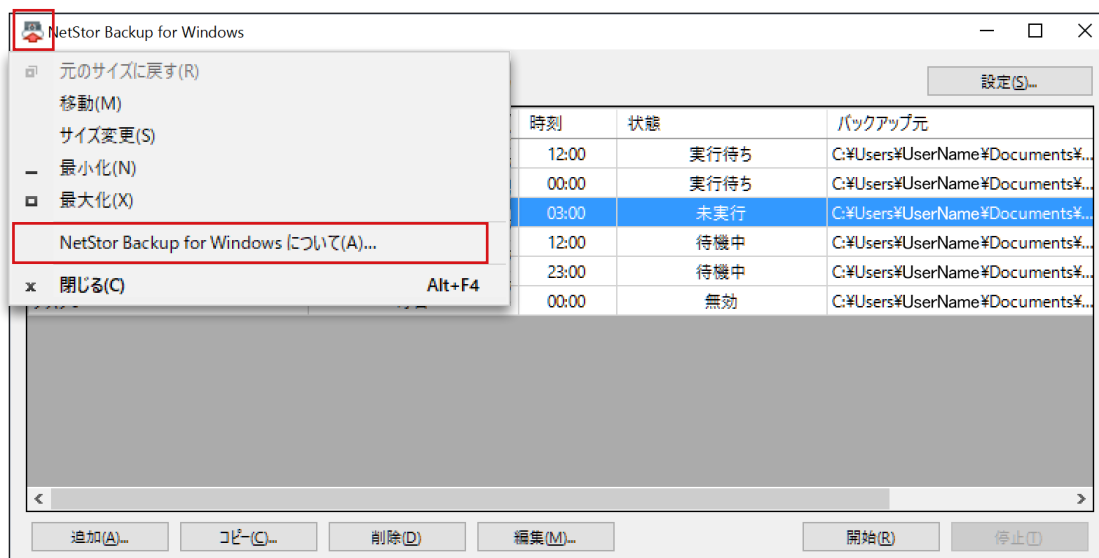
認証リダイレクト用：www.ele-manager.com

※プロトコルはHTTPS、ポートは443

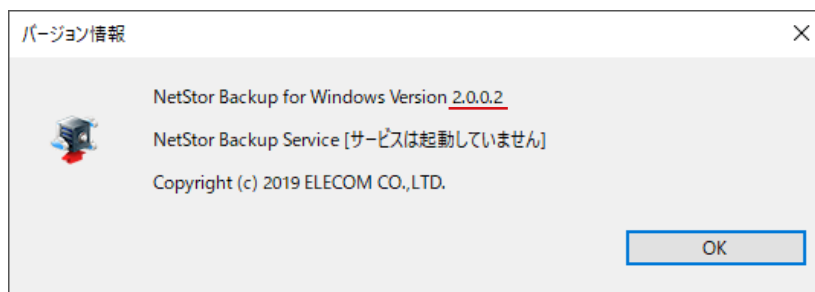
2.6

バージョンの確認方法

1 メイン画面左上のアイコンをクリックします。



2 表示されるメニューから「NetStor Backup for Windowsについて」をクリックします。
バージョン情報が表示されます。



※ ご利用の環境、インストール時期により、表示されるアイコンやバージョンは異なる場合がございます。

Chapter 3

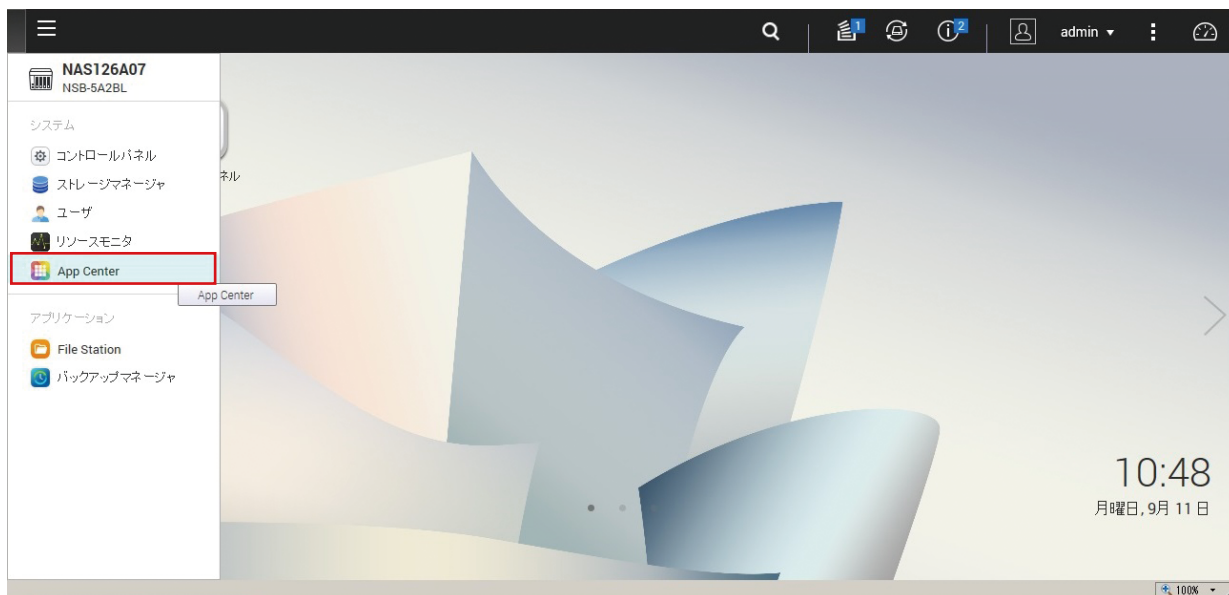
バックアップ編

「NetStor Backup for Linux」

「NetStor Backup」を使うと、NAS上にあるフォルダーを簡単にクラウドストレージやローカルストレージなどにバックアップすることができます。
また、バックアップは、決められた日時に定期的に行うように設定できます。

3.1 インストール方法

- 1 NASの「管理画面」へログインし、「App Center」を開きます。



- 2 「App Center」画面で「すべてのアプリ」をクリック(❶)することにより、インストール可能なアプリの一覧が表示されます。

ここで、「NetStorBackup」アイコン下の「+インストール」をクリック(❷)します。



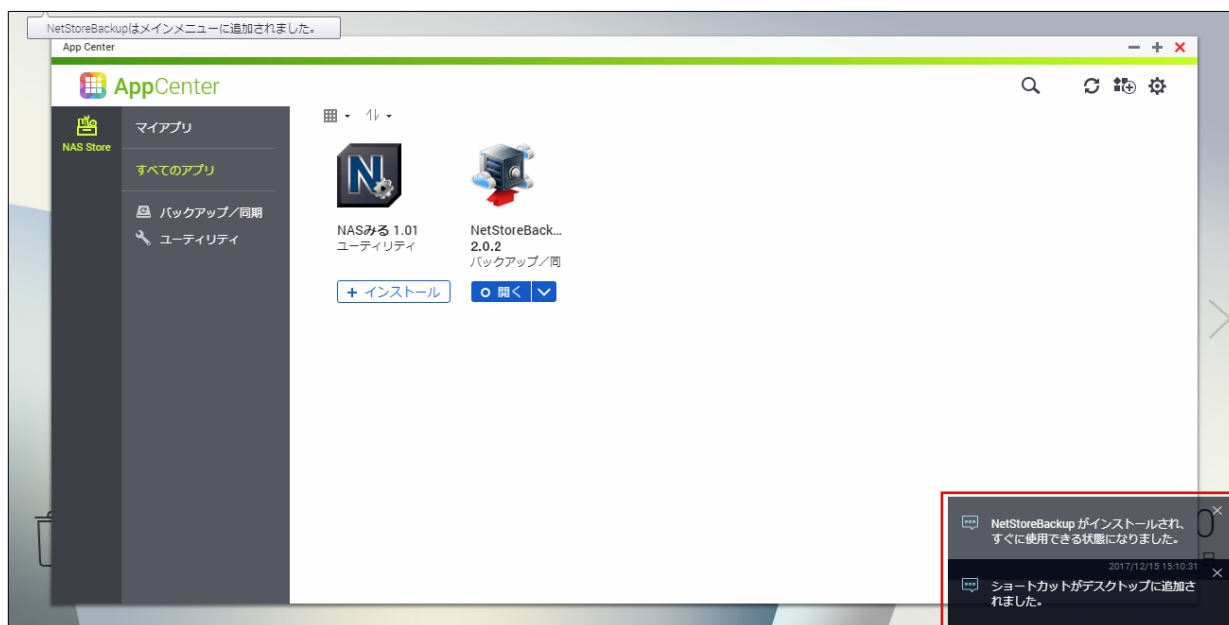
※ ご利用の環境、インストール時期により表示されるアイコンやバージョンは異なる場合がございます。

- 3 インストールが完了するまで、しばらくお待ちください。





インストールが完了すると、画面右下にメッセージが表示され、「マイアプリ」に「NetStorBackup」のアイコンが追加されます。



MEMO

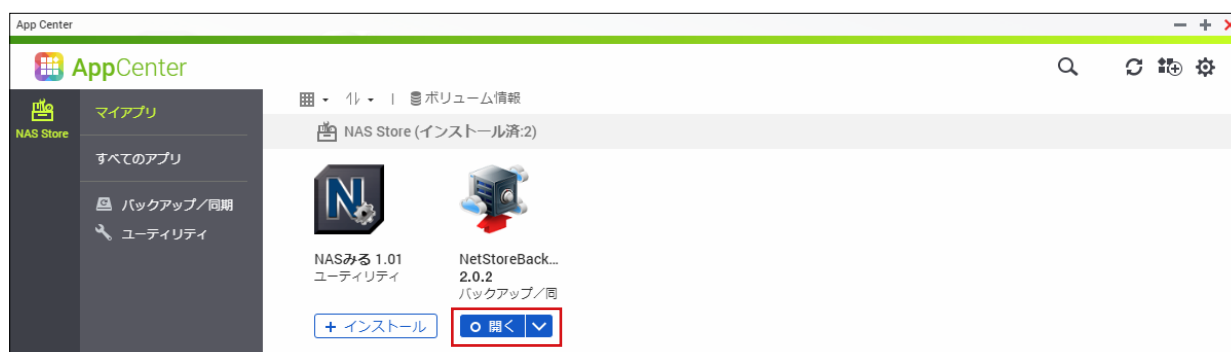
【アプリケーションを手動でインストールする場合】

- ① 事前にインストールするアプリケーションファイルをクライアント PC に保存します。
- ② 「AppCenter」画面を開き右上の アイコンをクリックします。
- ③ 「手動でインストール」画面が表示されたら「参照」ボタンをクリックし、インストールするファイルを選択して「開く」ボタンをクリックします。
- ④ 「インストール」ボタンをクリックします。
- ⑤ 「このソフトウェアパッケージをインストールしますか?」と表示されたら「OK」ボタンをクリックします。
- ⑥ インストールが開始されますので、完了するまでお待ちください。
- ⑦ インストールが完了後はメッセージに従い「手動でインストール」画面を閉じます。
- ⑧ 「AppCenter」画面に追加されたアプリケーションの「開く」ボタンをクリックしてアプリケーションを起動します。

3.2 起動方法

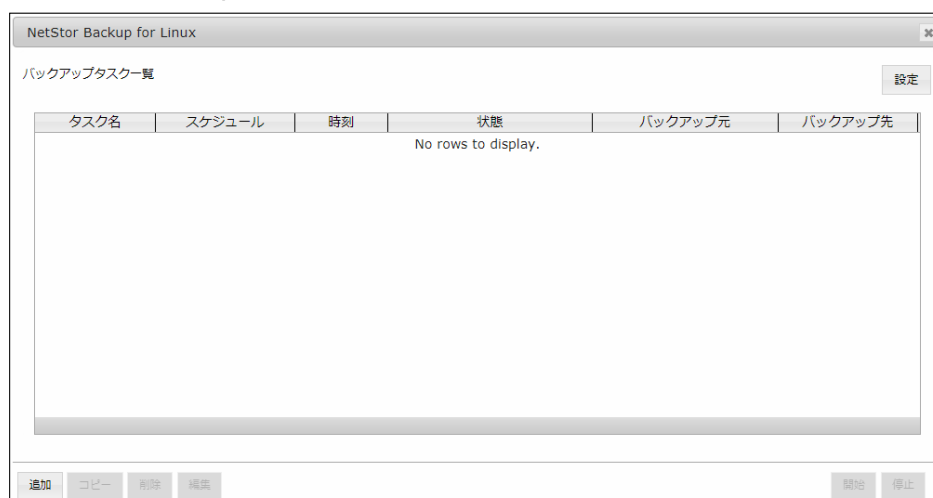
NAS の「管理画面」へログインし、「App Center」の「マイアプリ」を開き、「NetStorBackup」アイコンの「開く」をクリックします。

管理画面のログイン方法はNAS本体のユーザーズマニュアル「管理画面へのアクセス手順」をご確認ください。



※ ご利用の環境、インストール時期により表示されるアイコンやバージョンは異なる場合がございます。

NetStor Backupが起動し、メイン画面が表示されます。



MEMO

Internet Explorer 11 をお使いの場合、セキュリティの設定によってはメイン画面が表示されない場合があります。以下の手順で本製品の IP アドレスを信頼済みサイトに追加してください。
「インターネットオプション」-「セキュリティ」-「信頼済みサイト」の画面で「サイト」をクリックし、「この Web サイトをゾーンに追加する」に本製品の IP アドレスを入力して「追加」してください。

MEMO

クラウドストレージサービスにバックアップする場合は、事前にクラウドストレージサービスの契約（アカウント作成等）をお願いします。
クラウドストレージサービスの通信料金、規約等につきましては、対象クラウドストレージサービスのホームページをご確認ください。

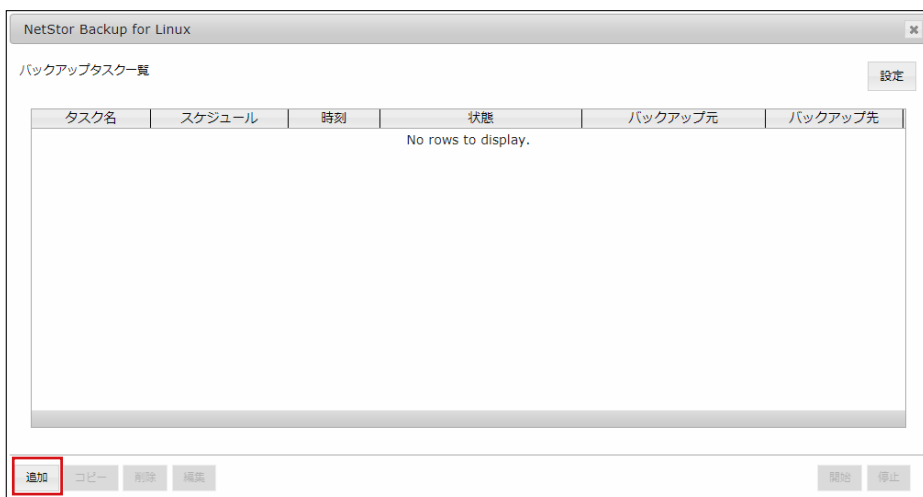
【対応クラウドサービス】

- Amazon S3 : <https://aws.amazon.com/jp/s3/>
- Microsoft Azure : <https://azure.microsoft.com/ja-jp/>
- Box : <https://www.box.com/ja-jp/home>

3.3

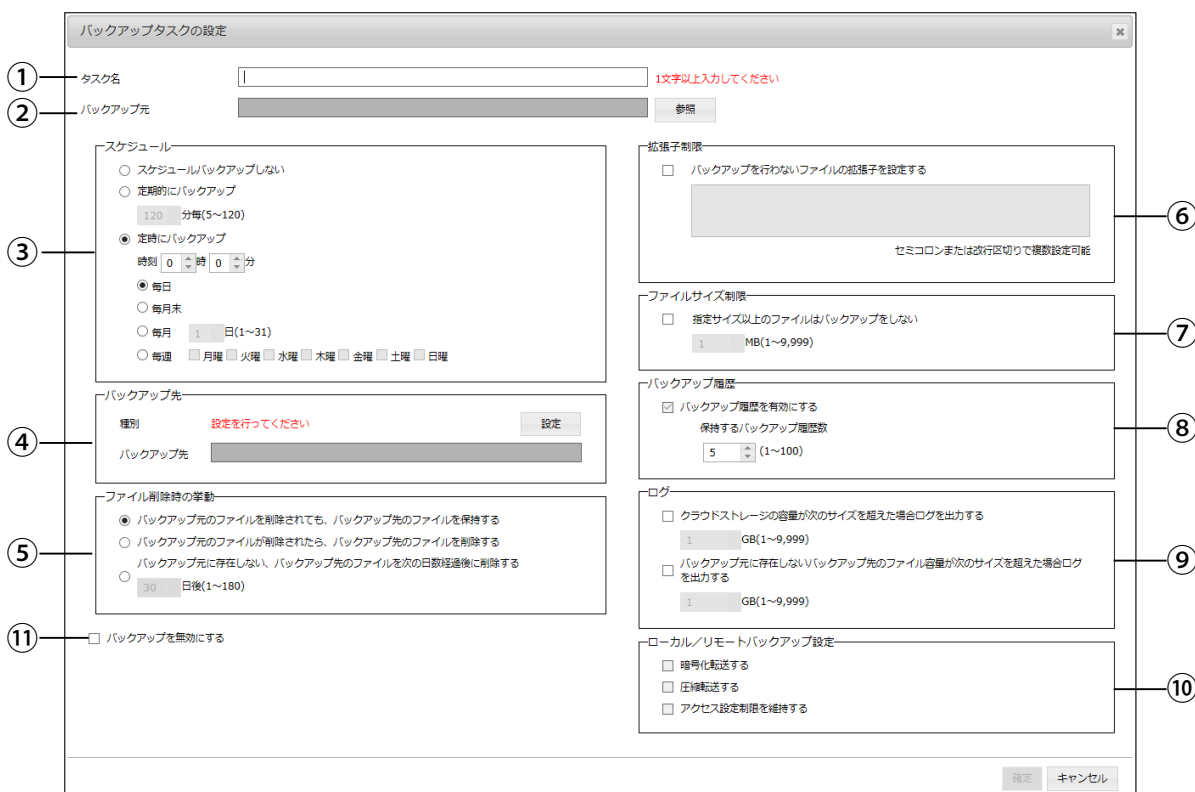
バックアップタスクを追加する

1 メイン画面の「追加」をクリックします。



バックアップタスクの設定の前に「3.4 バックアップ設定の制限事項」(42 ページ)をご確認ください。

2 「バックアップタスクの設定」画面が表示されますので、各項目を設定します。



① タスク名	わかりやすい名前を1～32文字(半角または全角)で入力します。(入力必須)	
② バックアップ元	[参照]をクリックして、バックアップするフォルダーを選択します。 ● 管理画面の「共有フォルダー」で表示されるフォルダー、およびサブフォルダーをバックアップ元として選択可能です。ネットワークドライブに表示される「home」フォルダーをバックアップする場合は、42 ページを参照してください。	
③ スケジュール	バックアップのスケジュールを設定します。	
	スケジュールバックアップしない	手動でバックアップする場合に選択します。
	定期的にバックアップ	短い間隔でバックアップする場合に選択します。間隔は5～120分の範囲内で1分単位で設定できます。
	定時にバックアップ	決められた日時にバックアップします。
④ バックアップ先*	バックアップ先となるクラウドストレージ上またはローカルフォルダー、リモート先の場所を設定します。 [設定]をクリックすると、設定画面が表示されますのでバックアップ種別を選択し、各情報を入力します。 ● 設定方法は各項目のページを参照してください。	
	クラウドストレージにバックアップするとき	33 ページ
	ローカルバックアップするとき	39 ページ
	リモートバックアップするとき	40 ページ
	リモートレプリケーションするとき	41 ページ
	アカウント名	わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます(100文字以内)。ただし、以下の文字は使用できません。 (¥ / : * ? " < >) プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。
	削除	選択したアカウントを削除します。
⑤ ファイル削除時の挙動	バックアップ元のファイルが削除されたときのファイルの扱い方を設定します。	
	バックアップ元のファイルを削除されても、バックアップ先のファイルを保持する	バックアップ先のファイルを削除せずに残します。
	バックアップ元のファイルが削除されたら、バックアップ先のファイルを削除する	バックアップ先のファイルも削除します。
	バックアップ元に存在しない、バックアップ先のファイルを次の日数経過後に削除する	ファイルの削除後、設定した日数が経過したら、バックアップ先のファイルも削除します。 日数は1～180日の範囲で設定できます。
⑥ 拡張子制限	チェックすると、指定した拡張子のファイルがバックアップされなくなります。 すでにバックアップされているファイルは削除されません。 指定は以下のように行います。 ● 「.(ピリオド)は不要です。 ● 大文字、小文字は区別しません。 ● 対象はファイル名のみです。 ● 「.(セミコロン)または改行を区切り文字にすることで複数設定することができます。 (例)	
	セミコロンの場合	log;bak;DS_Store
	改行の場合	log bak DS_Store

⑦ ファイルサイズ制限	チェックすると、設定したサイズ以上のファイルはバックアップされなくなります。 サイズは1～9999MBの範囲で設定できます。	
⑧ バックアップ履歴	バックアップ履歴を有効にする	チェックすると、ファイルをバックアップするときに、以前のバージョンのファイルを指定世代分保持します。 ● バックアップ履歴を有効にする場合、FAT32フォーマットの外部デバイスは使用できません。 ● NTFSフォーマットの外部デバイスへバックアップ履歴を有効にする場合、バックアップデータの容量が実際の容量より増加することがあります。 外部デバイスへバックアップ履歴有効にするときは、EXT4またはEXT3にすることを推奨いたします。 ● Boxをアップロード先に指定している場合、「バックアップ履歴を有効にする」のチェックを外しても、NetStorBackupでは管理しませんが、Box自体の機能で履歴が残ります。
	保持するバックアップ履歴数	以前のバージョンのファイルを何世代分保持するか設定します。 1～100の範囲で設定できます。 保持したファイルは後で復元することができます。 ● 「1」に設定すると、以前のバージョンは残しません。
⑨ ログ	指定した条件になったときに、システムログを出力することができます。	
	クラウドサービスの使用容量が次のサイズを超えた場合ログを出力する	チェックすると、バックアップ先のバケットまたはコンテナの容量が、設定したサイズを超えたときにログを出力します。 サイズは1～9999GBの範囲で設定できます。
	ローカルに存在しないクラウド上のファイル容量が次のサイズを超えた場合ログを出力する	バックアップ先フォルダーに、ローカルに存在しないファイルが増えてきたときにログを出力します。 サイズは1～9999GBの範囲で設定できます。
⑩ ローカル／リモートバックアップ設定	暗号化転送する	チェックすると、バックアップ元からバックアップ先へ転送中のデータが暗号化され、転送中のセキュリティが向上します。
	圧縮転送する	チェックすると、転送前のデータを圧縮し、バックアップデータ転送中のネットワークの負荷を軽減します。
	アクセス設定制限を維持する	チェックすると、バックアップ元のアクセス設定制限がバックアップ先でも維持されます。 <ご注意> バックアップ元とバックアップ先が同じドメインに参加している環境で使用することを推奨します。 AD環境でない場合、同じユーザー名は同じユーザーIDに設定されている必要があります。
⑪ [バックアップを無効にする]	チェックすると、設定中のバックアップを実行しないようにします。 設定した内容は保存されます。	

3 設定が終わったら、[確定]をクリックします。

バックアップタスクの設定

タスク名:

バックアップ元: [参照](#)

スケジュール

☐ スケジュールバックアップしない

☐ 定期的にバックアップ

120 分毎(5~120)

☒ 定時にバックアップ

時刻: 時 分

☒ 毎日

☐ 毎月末

☐ 毎月 日(1~31)

☐ 毎週 ☐ 月曜 ☐ 火曜 ☐ 水曜 ☐ 木曜 ☐ 金曜 ☐ 土曜 ☐ 日曜

バックアップ先

種別: Amazon S3 [設定](#)

バックアップ先:

ファイル削除時の挙動

☒ バックアップ元のファイルを削除しても、バックアップ先のファイルを保持する

☐ バックアップ元のファイルが削除されたら、バックアップ先のファイルを削除する

☐ バックアップ元に存在しない、バックアップ先のファイルを次の日経過後に削除する

30 日後(1~180)

☐ バックアップを無効にする

拡張子制限

☐ バックアップを行わないファイルの拡張子を設定する

セミコロンまたは改行区切りで複数設定可能

ファイルサイズ制限

☐ 指定サイズ以上のファイルはバックアップをしない

1 MB(1~9,999)

バックアップ履歴

☒ バックアップ履歴を有効にする

保持するバックアップ履歴数

5 (1~100)

ログ

☐ クラウドストレージの容量が次のサイズを超えた場合ログを出力する

1 GB(1~9,999)

☐ バックアップ元に存在しないバックアップ先のファイル容量が次のサイズを超えた場合ログを出力する

1 GB(1~9,999)

ローカル/リモートバックアップ設定

☐ 暗号化転送する

☐ 圧縮転送する

☐ アクセス設定制限を維持する

[確定](#) [キャンセル](#)

メイン画面に作成したタスクが追加され、指定した時間になると自動的にバックアップ処理がおこなわれます。

NetStor Backup for Linux

バックアップタスク一覧 [設定](#)

タスク名	スケジュール	時刻	状態	バックアップ元	バックアップ先
バックアップタ...	毎日	04:00	未実行	BackupData/	backup

追加 コピー 削除 編集 [開始](#) [停止](#)

MEMO

- 初回は全ファイルバックアップ、次回以降は差分バックアップが行なわれます。
- ローカルバックアップ時にバックアップ先の空き領域が足りなくなった場合は、エラーとなってバックアップが中断されます。

■ クラウドサービス別のバックアップ設定方法

Amazon S3 の場合

- ① [Amazon S3]を選択します。

設定

アカウント名 削除

種別

① ☒ Amazon S3 ☐ Microsoft Azure

☐ Box

☐ ローカルバックアップ ☐ ローカルレプリケーション

☐ リモートバックアップ ☐ リモートレプリケーション

アクセスキーID

シークレットアクセスキー

接続テスト

バケット名

確定 キャンセル

アカウント名

わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます(100文字以内)。

ただし、以下の文字は使用できません。

(¥ / : * ? " < > |)

プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。

- ② [アクセスキーID]と[シークレットアクセスキー]を入力します。

設定

アカウント名 削除

種別

☒ Amazon S3 ☐ Microsoft Azure

☐ Box

☐ ローカルバックアップ ☐ ローカルレプリケーション

☐ リモートバックアップ ☐ リモートレプリケーション

②

②

④ 接続テストを行ってください ③ 接続テスト

バケット名

確定 キャンセル

- ③ 画面に[接続テストを行ってください]と表示されますので、[接続テスト]をクリックします。

接続が成功すると、[接続テスト済みです]と表示されます。

- [接続テスト]をクリックした後、[接続テストに失敗しました]と表示される場合は、ストレージ情報に誤りがないか確認してください(接続テストをするときはインターネットに接続されている必要があります)。

④ バックアップ先の[バケット名]を入力するか、プルダウンメニューから選択します。

ストレージ上に存在しないバケット名を入力した場合は、ストレージ上に新たに作成されます。



注意

AmazonS3 のバケットは以下の 2 通りの方法で作成できますが、2 の場合は注意が必要です。

1. NetStorBackup からバケットを作成したとき

自動的に先頭に「NSB」が付きますが、NetStorBackup に表示されるバケット名では「NSB」は表示されません。

2. AmazonS3 の管理画面からバケットを作成したとき

バケット名の先頭に「NSB」が付いていないと NetStorBackup に表示されません。

Microsoft Azure の場合

① [Microsoft Azure]を選択します。

アカウント名

わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます(100文字以内)。

ただし、以下の文字は使用できません。

(¥ / : * ? " < > |)

プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。

② [ストレージアカウント名]と[ストレージアクセスキー]を入力します。

- ③ 画面に[接続テストを行ってください]と表示されますので、[接続テスト]をクリックします。

接続が成功すると、[接続テスト済みです]と表示されます。

- [接続テスト]をクリックした後、[接続テストに失敗しました]と表示される場合は、ストレージ情報に誤りがないか確認してください（接続テストをするときはインターネットに接続されている必要があります）。

- ④ バックアップ先の[コンテナ名]を入力するか、プルダウンメニューから選択します。

ストレージ上に存在しないコンテナ名を入力した場合は、ストレージ上に新たに作成されます。

Box の場合

- ① [Box]を選択します。

アカウント名

わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます（100文字以内）。

ただし、以下の文字は使用できません。

(¥ / : * ? " < > |)

プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。

- ② [バックアップ方向]を選択します。

アップロード	NASからBoxに対して、ファイルのバックアップを行います。 アップロードタスクの場合、Boxのアカウント権限レベルが「ファイルの編集」が可能である必要があります。 アカウントが「共同所有者」または「編集者」のいずれかでタスクを設定してください。
ダウンロード	BoxからNASに対して、ファイルのバックアップを行います。 ダウンロードタスクの場合、Boxのアカウント権限レベルが「ダウンロード」が可能である必要があります。 アカウントが「共同所有者」または「編集者」「ビューアー/アップローダー」「ビューアー」のいずれかでタスクを設定してください。
双方向同期	「優先度」で設定した順番に従い、アップロードとダウンロードを行います。

③ **[双方向同期]**を選択した場合、**[優先度]**を選択します。

NAS優先	以下の順番でバックアップを行います。 ① NASからBoxにアップロード ② BoxからNASにダウンロード
クラウド優先	以下の順番でバックアップを行います。 ① クラウドからNASにダウンロード ② NASからクラウドにアップロード

④ **[アカウント認証]**をクリックすると、Boxの認証画面が表示されますので、認証情報を入力し、**[承認]**をクリックします。

The image shows the Box login interface. At the top is the 'box' logo. Below it is a blue icon representing a folder or storage. The text 'Boxへのアクセスを許可するにはログインしてください' (Please log in to allow access to Box) is displayed. There are two input fields: 'メールアドレス' (Email address) and 'パスワード' (Password). Below these fields is a blue button labeled '承認' (Confirm). Under the button, there are two links: 'シングルサインオン (SSO) を使用する' (Use Single Sign-On (SSO)) and 'パスワードを忘れてしまった場合' (If you forgot your password).

MEMO

Box と連携する場合、バックアップタスクによってはアカウントの権限レベルで実行できるタスクがこととなります。設定するタスクに適應するアカウントで認証を行ってください。

Boxアカウント権限							
バックアップタスク	共同所有者	編集者	ビューアー /アップローダー	プレビューアー /アップローダー	ビューアー	プレビューアー	アップローダー
アップロード	○	○					
ダウンロード	○	○	○		○		

※ 2019/7 月現在の情報です。

認証に成功すると、リモートサーバのWebページが表示され、自動的に閉じられます。その後、**[接続テスト]** ボタンが有効になります。



注意

Internet Explorer を利用している場合、「アカウント認証に失敗しました」と表示されることがあります。下記の手順で一時的にセキュリティレベルを変更して設定を行ってください。

1. インターネットオプション→セキュリティ→インターネット→「保護モードを有効にする」のチェックを外す。
2. Internet Explorer を再起動する。
3. バックアップタスクを設定する。
4. 「保護モードを有効にする」にチェックを入れる。
5. Internet Explorer を終了する。

⑤ **[接続テストを行ってください]**と表示されますので、**[接続テスト]**をクリックします。

接続が成功すると、**[接続テスト済みです]**と表示されます。

● **[接続テスト]**をクリックした後、**[接続テストに失敗しました]**と表示される場合は、ストレージ情報に誤りがないか確認してください（接続テストをするときはインターネットに接続されている必要があります）。

⑥ 接続が成功すると、**[接続テスト済みです]**と表示され、バックアップ先のフォルダー選択が可能になります。

- ⑦ **[フォルダー選択]**をクリックすると「**フォルダーの参照**」というウィンドウが表示されますので、任意のフォルダーを選択し、**[OK]**をクリックします。



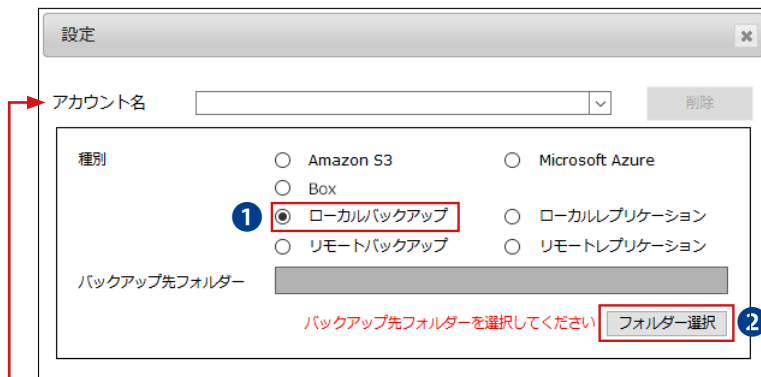
- ストレージ上に新しくフォルダーを作成したい場合は、**[新しいフォルダーの作成]**をクリックしてください。

- ⑧ **[バックアップ先フォルダー]**に選択したフォルダー名が表示されていることを確認し、**[確定]**をクリックします。



■ ローカルバックアップの設定方法

- ① [ローカルバックアップ]を選択します。



アカウント名

わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます(100文字以内)。

ただし、以下の文字は使用できません。

(¥ / : * ? " < > |)

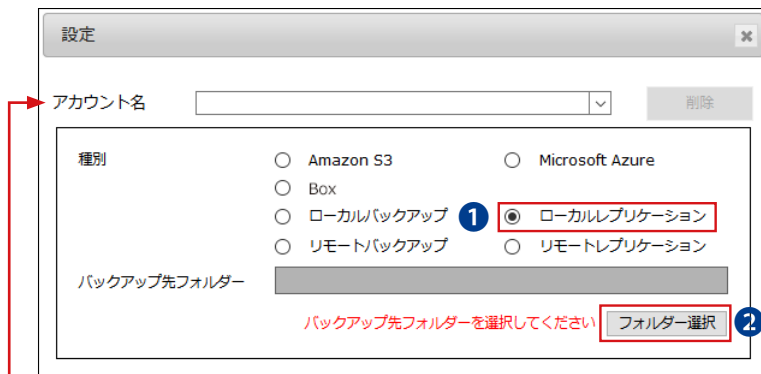
プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。

- ② [フォルダー選択]をクリックし、ローカルにあるフォルダーを選択します。

- ネットワーク上にあるフォルダーは指定できません。

■ ローカルレプリケーションの設定方法

- ① [ローカルレプリケーション]を選択します。



アカウント名

わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます(100文字以内)。

ただし、以下の文字は使用できません。

(¥ / : * ? " < > |)

プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。

- ② [フォルダー選択]をクリックし、ローカルにあるフォルダーを選択します。

- ネットワーク上にあるフォルダーは指定できません。

■ リモートバックアップの設定方法

① [リモートバックアップ]を選択します。

アカウント名

わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます(100文字以内)。

ただし、以下の文字は使用できません。

(¥ / : * ? " < > |)

プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。

② リモートバックアップ先のNSB-5A/7Aシリーズの情報を入力します。

リモートサーバー	最大 64 文字。半角英数字、および「. (ピリオド)」、「- (ハイフン)」のみ使用できます。
ポート番号	1 ～ 65,535 の半角数字で入力します。 (初期値：873)
パスワード	最大 32 文字。以下の文字は使用できません。 ` , / * + " % ' = \ [] < > ; : ?
リモートサーバーの admin/パスワード	レプリケーション先のadmin/パスワードを入力します。最大64文字。 半角英数字、および「- _@!#\$%&'()*+,-./;<>=?[]^{ }~.-」のみ使用可能です。

③ 画面に[接続テストを行ってください]と表示されますので、[接続テスト]をクリックします。

- [接続テスト]をクリックした後、[接続テストに失敗しました]と表示される場合は、相手機器側の情報に誤りがないか、また認証設定が有効になっているか確認してください。(接続テストをするときはインターネットに接続されている必要があります)。

④ [フォルダー選択]をクリックし、リモート先にあるフォルダーを選択します。

■ リモートレプリケーションの設定方法

① [リモートレプリケーション]を選択します。

アカウント名

わかりやすい名前をつけて設定を保存することができます(100文字以内)。

ただし、以下の文字は使用できません。

(¥ / : * ? " < > |)

プルダウンメニューからすでに作成したアカウントを選択することもできます。

② リモートレプリケーション先のNSB-5A/7Aシリーズのサーバー情報を入力します。

リモートサーバー	最大 64 文字。半角英数字、および「. (ピリオド)」、「- (ハイフン)」のみ使用できます。
ポート番号	1 ~ 65,535 の半角数字で入力します。 (初期値：8899)
パスワード	最大 32 文字。
リモートサーバーのadmin/パスワード	レプリケーション先のadmin/パスワードを入力します。最大64文字。 半角英数字、および「-_@!#\$%&()*+,-./;<>=?[]^{ }~.-」のみ使用可能です。

③ 画面に[接続テストを行ってください]と表示されますので、[接続テスト]をクリックします。

- [接続テスト]をクリックした後、[接続テストに失敗しました]と表示される場合は、相手機器側の情報に誤りがないか、また認証設定が有効になっているか確認してください。(接続テストをするときはインターネットに接続されている必要があります)。

④ [フォルダー選択]をクリックし、リモート先にあるフォルダーを選択します。

3.4 バックアップ設定の制限事項

【フォルダーについての制限事項】

- AmazonS3、Azureへのバックアップは、バックアップ元のフォルダーを含めてバックアップを行います。
Boxやローカル、リモートへのバックアップでは、バックアップ元フォルダーは含みません。
- 共有フォルダー名を含め、1024バイト以上のファイルはバックアップできません。文字数制限によりバックアップができなかった場合は、ファイル名やフォルダー名を短くするか対象となるデータを上の階層のフォルダーに保存してください。
- 管理画面の「共有フォルダー」で表示されるフォルダー、およびサブフォルダーをバックアップ元として選択可能です。

ネットワークドライブに表示される「home」フォルダー^{※1}（各アカウントの個別フォルダー）のデータをバックアップするにはバックアップ元に「homes」を選択することで、すべてのアカウント分の個別フォルダーをまとめてバックアップすることが可能です。特定ユーザーの「home」フォルダーを個別にバックアップする場合は、「homes」フォルダー^{※2}内のアカウント名フォルダーを選択してバックアップタスクを作成してください。

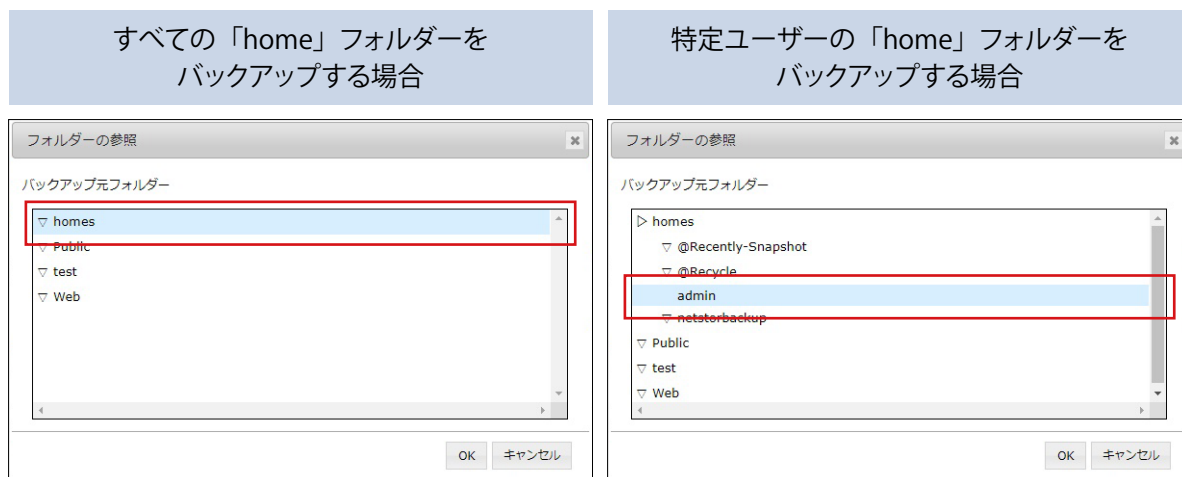
管理画面の共有フォルダー

コントロールパネル							
← ControlPanel							
システム 権限設定 ネットワークサービス	ユーザ	共有フォルダー					
	ユーザグループ	高度な許可					
	共有フォルダー	フォルダー集約					
	クォータ	作成 ▼					
ドメインのセキュリティ		スナップショット共有フォルダーに移行		削除		デフォルトの共有フォルダーの復元	
		フォルダー名	サイズ	フォル...	ファイル	非...	ボリューム
☐		Public	8 KB	2	2	い...	Data/Vol1
☐		Web	8 KB	2	2	い...	Data/Vol1
☐		homes	12 KB	4	3	い...	Data/Vol1
☐		test	12 KB	2	3	い...	Data/Vol1

ネットワークドライブの画面

192.168.3.102		
ファイル	ホーム	共有 表示
ネットワーク > 192.168.3.102 >		
名前	種類	コメント
home		Home
homes		System default share
Public		System default share
test		
Web		System default share

Netstor Backupのバックアップ元参照画面



- ※ 1 「home」フォルダー：各ユーザーが自分しかアクセスできないデータを保存するための個人用フォルダーです。そのため、Netstor Backup からバックアップ元として直接参照することができません。
- ※ 2 「homes」フォルダー：システム管理者だけがアクセスできるフォルダーです。すべてのユーザーの「home」フォルダーがまとめて格納されるフォルダーです。

【フォーマット別制限事項】

- アクセス制限設定やバックアップ履歴を有効にする場合は、EXT4にすることを推奨します。

【バックアップ先にUSB HDDを使用する時の制限事項】

- FAT32形式の場合
 - ・ 取り外しを行うとファイルの所有者やグループが変更されます。
 - ・ 「アクセス制限設定を維持する」は使用できません。
 - ・ 「バックアップ履歴」は使用できません。
 - ・ 4GB以上のファイルは保存できません。
- NTFS形式の場合
 - ・ 取り外しを行うとファイルの所有者やグループが変更されます。
 - ・ バックアップ履歴を有効にすると、バックアップデータの容量が実際の容量より増加することがあります。
- HFS+形式の場合
 - ・ 取り外しを行うとファイルの所有者やグループが変更されます。
 - ・ 「アクセス制限設定を維持する」は使用できません。
 - ・ 「バックアップ履歴」は使用できません。
- EXT3形式の場合
 - ・ 取り外しを行うとファイルの所有者やグループが変更されます。
 - ・ 「アクセス制限設定を維持する」は使用できません。

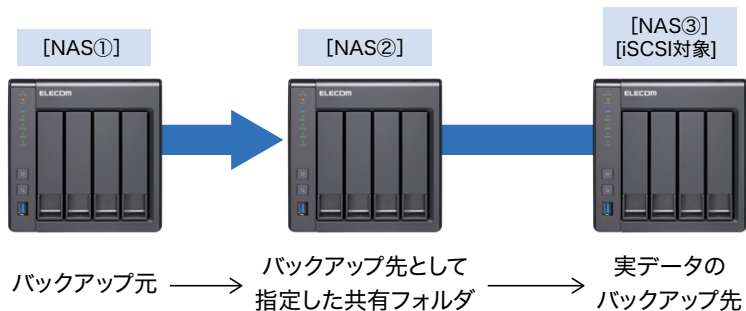
【バックアップ先がリモートの時の制限事項】

- 別筐体のiSCSIストレージをマウントした仮想ディスクをバックアップ先に設定した場合、リモートバックアップ/リモートレプリケーションでバックアップは行えません。ローカルバックアップ/ローカルレプリケーションではバックアップは可能です。



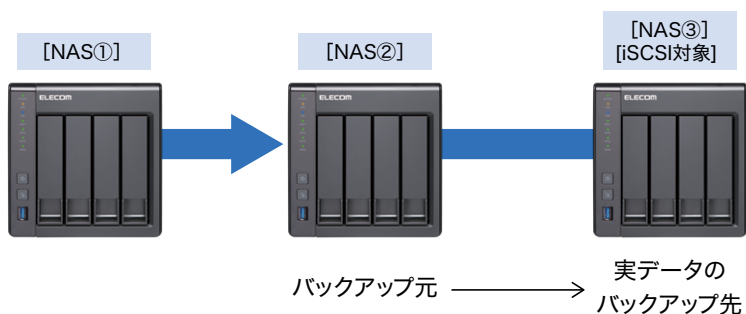
バックアップ不可

- ・リモートバックアップ
- ・リモートレプリケーション



バックアップ可能

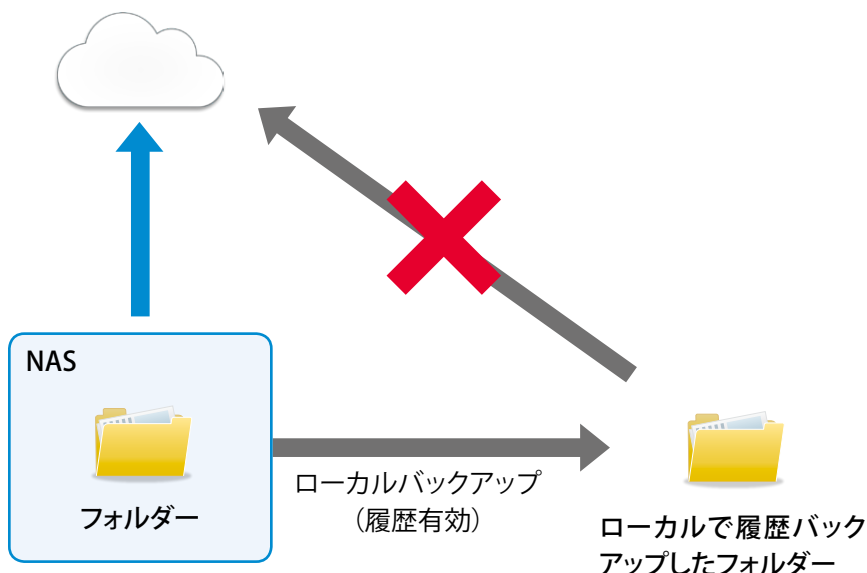
- ・ローカルバックアップ
- ・ローカルレプリケーション



【クラウドバックアップの制限事項】

- クラウド※をバックアップ先に指定する場合、「ローカルで履歴バックアップしたフォルダー」はクラウド※へのバックアップ対象外です。

※ Amazon S3 / Microsoft Azure / Box



- Boxの無料アカウントを使用するときは、必ず「バックアップ履歴を有効にする」のチェックを外してください。
Boxの無料アカウントでは履歴機能が利用できません。
- Boxをアップロード先に指定している場合、「バックアップ履歴を有効にする」のチェックを外しても、NetStorBackupでは管理しませんが、Box自体の機能で履歴が残ります。
- Box側の制限により、一度のバックアップタスクで大量のファイルを移行すると、エラーが発生する場合があります。
一度のバックアップタスクで移行できるファイル数量の上限は、最大50,000ファイルを目安にしてください。

【プロキシサーバー経由でのバックアップについて】

- プロキシサーバーに例外設定が必要な場合は、プロキシサーバーへ以下の情報を設定してください。

認証リダイレクト用 : www.ele-manager.com

※プロトコルはHTTPS、ポートは443

3.5

メイン画面について

※「タスク名」「バックアップ元」「バックアップ先」の表示は例です。

バックアップタスク一覧

タスク名	スケジュール	時刻	状態	バックアップ元	バックアップ先	種別
Task Name 1	月火水金土日	12:00	待機中	共有フォルダ①	保存先	バックアップ
Task Name 2	月水金	00:00	未実行	関東支店定期データ/data/2017	バックアップ①	バックアップ
Task Name 3	毎日	03:00	バックアップ中	東北支店定期データ	バックアップ②	バックアップ
Task Name 4	毎月31日	23:00	待機中	北海道支店定期データ	バックアップ③	バックアップ
Task Name 5	毎月月末	23:59	実行待ち	関西支店定期データ	バックアップ④	バックアップ
Task Name 6	毎日	22:00	待機中	共有フォルダ②	backup/2018/05	バックアップ
Task Name 7	毎日	22:10	待機中	共有フォルダ③	172.17.165.64:backup/2018	レプリケーション
Task Name 8	毎日	23:00	待機中	報告用書類2018	バックアップ報告書類2018	バックアップ
Task Name 9			レプリケーション中	報告用書類2017	172.17.165.64:report/2017	レプリケーション

③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

MEMO

バックアップの種別がレプリケーションの場合、スケジュールと時刻は空欄で表示されます。

① 設定

各タスク共通の設定を行います。

共通設定

プロセス優先順位
プロセス優先度
通常

同時バックアップ数
同時にバックアップするファイル数
5 (1~10)

リモートバックアップの認証設定
☐ 本機に対するリモートバックアップを受け付ける
ポート番号 873 (1~65,535)
ユーザー名 rsync
パスワード
本機をリモートバックアップ先に設定するときに、このユーザー名とパスワードで認証します。

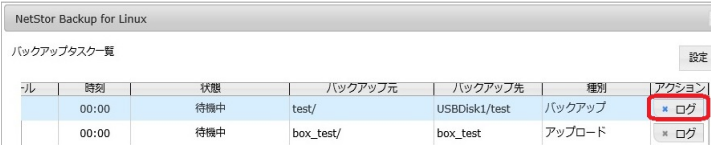
リモートレプリケーションの認証設定
☐ 本機に対するリモートレプリケーションを受け付ける
ポート番号 8899 (1~65,535)
パスワード
本機をリモートレプリケーション先に設定するときに、このパスワードで認証します。

OK キャンセル

プロセス優先順位

本ソフトのシステムリソース利用の優先度を以下から設定します。
[高/通常以上/通常(初期値)/通常以下/低]

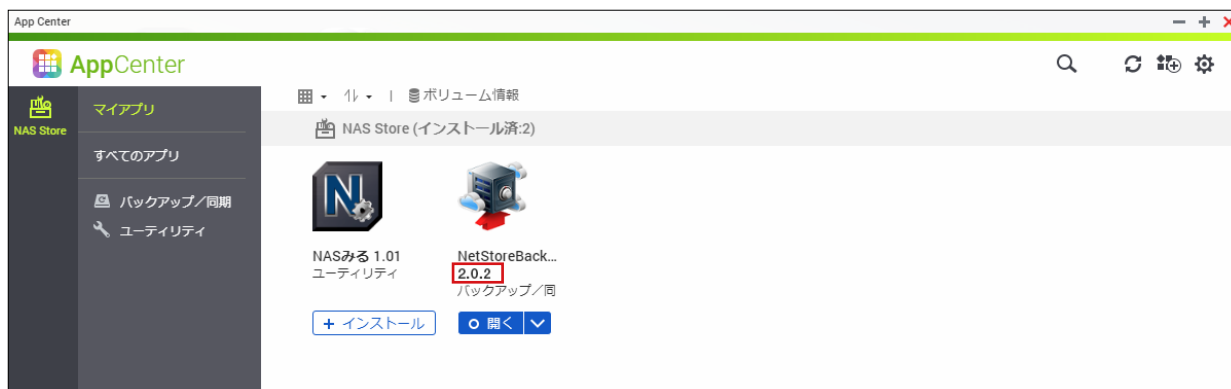
- 優先度を高くすると、バックアッププロセスに優先的に CPU などの資源が割り当てられるようになり、逆に低くすると他のプロセスよりも資源の割り当てが少なくなります。
システム全体の負荷が高いような場合にもバックアップ処理が優先的に実行されるようにしたい場合などに高くします。
バックアッププロセスの負荷が高すぎて他の重要な処理に影響が出ているような場合には低くします。
通常は変更の必要はありません。

	同時バックアップ数	クラウドストレージへ同時に並列で転送するファイル数を設定します。 設定できる数は1～10個です。 回線の状態などにもよりますが、バックアップ元に小容量ファイルがたくさんあるような場合、数を増やすことでバックアップが早く終わる可能性があります。 逆にバックアップ元が大容量ファイル中心の場合、同時に転送する数が増えると帯域を分け合うことになるため、1つのファイルのバックアップに時間がかかることになります。 例えば、1GBのファイルが10個あり、帯域をフルに使って平等に分け合い、10分で終了するという前提で比べた場合、 - 同時バックアップ数が「1」のとき → 最初のファイルは1分でバックアップ完了 - 同時バックアップ数が「10」のとき → 最初のファイルは完了まで10分かかります となりますので、順番に確実にバックアップを終えたい場合は、同時バックアップ数を減らす設定をおすすめします。	
	リモートバックアップの認証設定	本機に対するリモートバックアップを受け付ける	本製品をバックアップ先として設定する場合にチェックを入れます。
		ポート番号	1～65,535の半角数字で入力します。 (初期値:873)
		ユーザー名	最大32文字。以下の文字は使用できません。 , / * + " % ' = \ [] < > ; : ?
		パスワード	最大32文字。
	リモートレプリケーションの認証設定	本機に対するリモートレプリケーションを受け付ける	本製品をバックアップ先として設定する場合にチェックを入れます。
		ポート番号	1～65,535の半角数字で入力します。 (初期値:8899)
		パスワード	最大16文字。全角は使用できません。
② タスク一覧	作成したバックアップタスクの一覧が表示されます。表示エリア右端の[アクション]の[ログ]ボタンをクリックすると、バックアップタスクの結果ログが取得できます。 ログファイル名: NetstorBackup_report_XX(バックアップタスクID).log  ※ログ取得機能は本アプリのVer.3.0.4からの追加機能です。ログ取得はVer.3.0.4以降で初めて実施したタスクの結果から取得可能です。 ※ログはバックアップ先がAmazonS3 / Azure / Boxの場合のみ取得可能です。ローカル / リモートバックアップには対応していません。		
③ 追加	タスクを追加作成します。(29 ページ参照)		
④ コピー	選択中のバックアップタスクの内容を元にして、新たなタスクを追加作成します。		
⑤ 削除	選択中のタスクを削除します。		
⑥ 編集	選択中のタスクを編集します。		
⑦ 開始	選択中のタスクをすぐに実行します。		
⑧ 停止	選択中のタスクを停止します。タスクが実行中のときのみクリックすることができます。		

3.6

バージョンの確認方法

App Centerで確認します。



※ ご利用の環境、インストール時期により表示されるアイコンやバージョンは異なる場合がございます。

Chapter 4

リストア編

「NetStor Restore for Windows」

「NetStor Restore for Windows」を使うと、クラウドストレージ上のファイルをブラウジングしたり、データをダウンロードすることができます。

4.1

動作環境

NetStor Restore for WindowsはクライアントPCなどにインストールして使用します。
対応OSは以下のとおりです。

- Windows 7 (32bit/64bit)
- Windows 8 (32bit/64bit)
- Windows 8.1 (32bit/64bit)
- Windows 10 (32bit/64bit)
- Windows Server 2012 R2
- Windows Storage Server 2012 R2
- Windows Server 2016
- Windows Storage Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows Server IoT 2019 for Storage

(2019 年12 月現在)

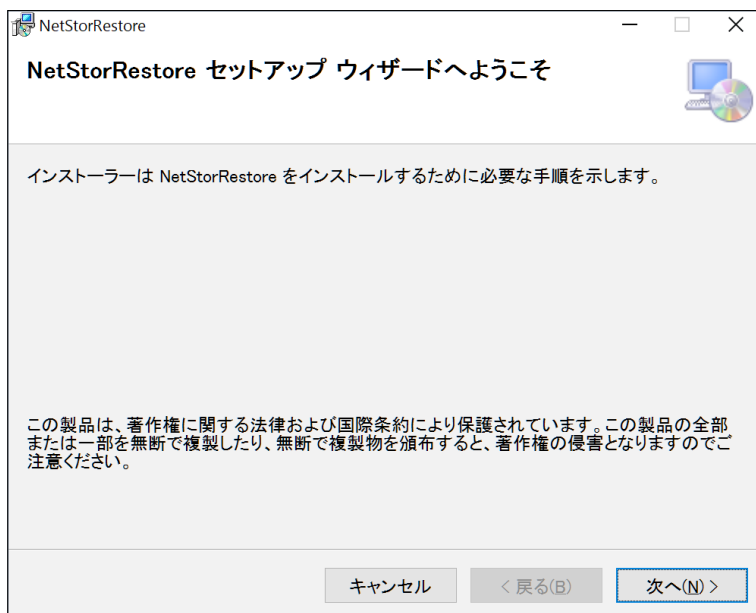
MEMO

NetStor Restore for Windows は Windows NAS 内にもインストール可能です。
その場合はリモートデスクトップで操作します。

4.2

インストール方法

- 1 「InstallNetStorRestore_x.x.x.msi」(xにはバージョンを示す数字が入ります)をダブルクリックしてインストーラーを起動します。



- 2 セットアップウィザード画面が起動しますので、画面の案内に従って、インストール手順を進めます。

4.3 起動方法

● Windows10の場合

スタートメニューから[すべてのアプリ]→[Elecom]→[NetStor Restore for Windows]の順でクリックします。

● Windows8の場合

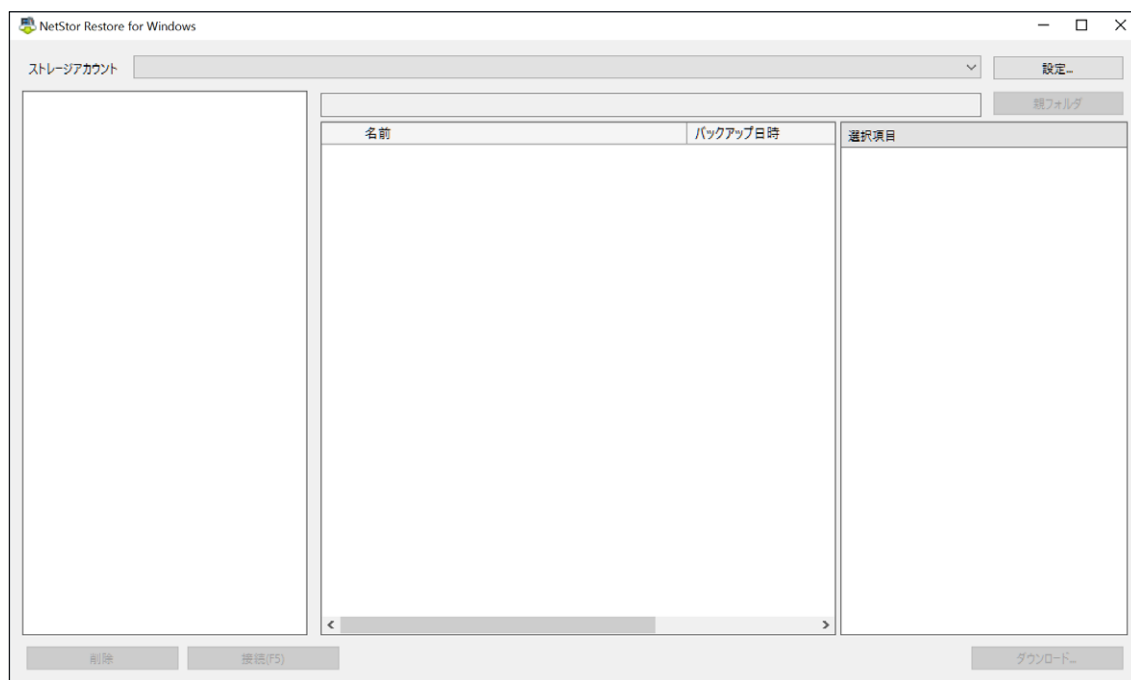
スタート画面のアプリ一覧画面から[NetStor Restore for Windows]をクリックします。

● Windows7の場合

スタートメニューから[すべてのプログラム]→[Elecom]→[NetStor Restore for Windows]の順でクリックします。



NetStor Restore for Windowsが起動し、メイン画面が表示されます。



MEMO

本ツールのご利用にあたり、事前にクラウドストレージサービスの契約（アカウント作成等）をお願いします。

クラウドストレージサービスの通信料金、規約等につきましては、対象クラウドストレージサービスのホームページをご確認ください。

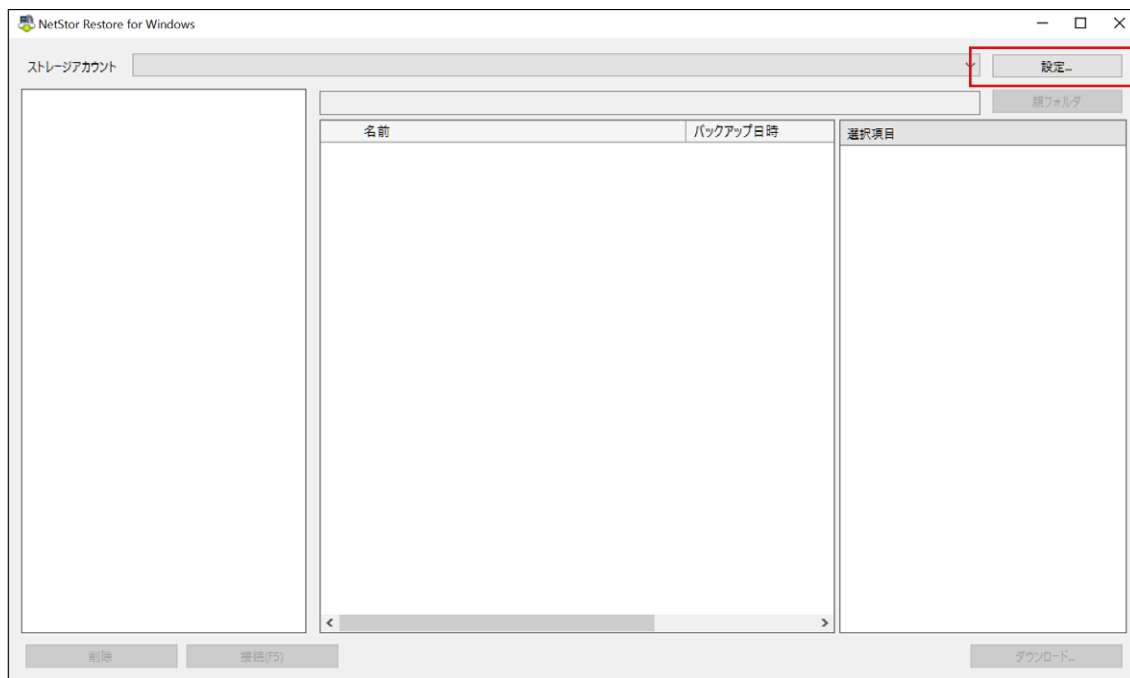
[対応クラウドサービス]

- Amazon S3
<https://aws.amazon.com/jp/s3/>
- Microsoft Azure
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/>

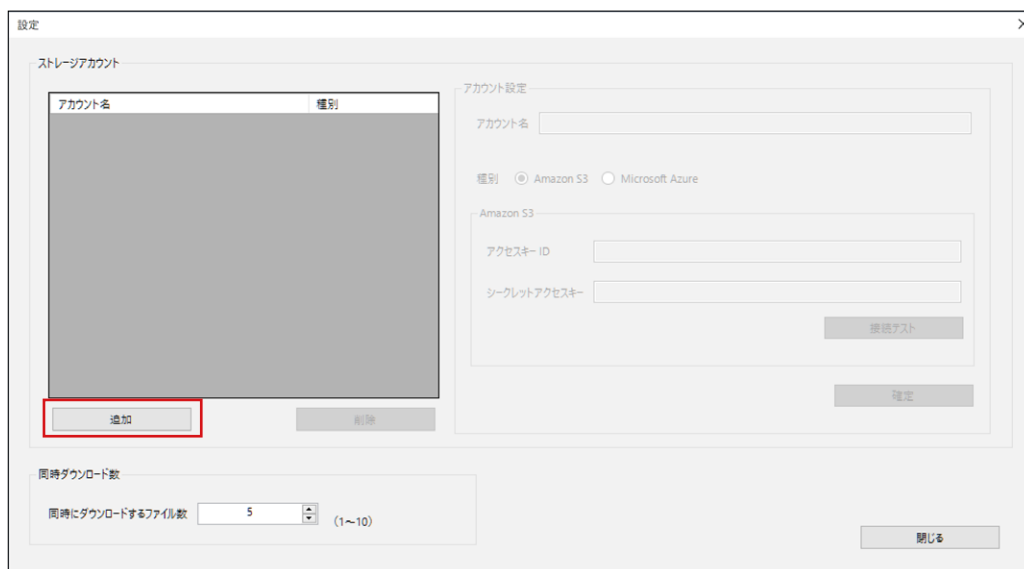
4.4

データをダウンロードする

- 1 メイン画面の「設定」をクリックします。



- 2 「ストレージアカウント設定」画面が表示されますので、「追加」をクリックします。



3 クラウドストレージのアカウント情報を入力します。※

- ① アカウント名を入力します。
識別しやすい名称を付けてください。(最大100文字)
● 以下の文字は使用できません。
(¥ / : * ? " < > |)
- ② 種別を選択します。
- ③ Amazon S3またはMicrosoft Azureのアカウント情報を入力します。

設定

ストレージアカウント

アカウント名 種別

① アカウント名: backup

② 種別: ☒ Amazon S3 ☐ Microsoft Azure

③ Amazon S3

アクセスキー ID

シークレットアクセスキー

接続テストを行ってください

接続テスト

確定

同時ダウンロード数

同時にダウンロードするファイル数: 5 (1~10)

追加 削除

閉じる

※アカウント設定情報は、クラウドサービス契約時に忘れずにメモしておいてください。

4 アカウント情報を入力したら、[接続テスト]をクリックします。

入力した情報で接続が確認できると、[接続テスト済みです]と表示されます。

設定

ストレージアカウント

アカウント名 種別

アカウント名: backup

種別: ☒ Amazon S3 ☐ Microsoft Azure

Amazon S3

アクセスキー ID

シークレットアクセスキー

接続テスト済みです

接続テスト

確定

同時ダウンロード数

同時にダウンロードするファイル数: 5 (1~10)

追加 削除

閉じる

[接続テスト]をクリックした後、[接続テストに失敗しました。]と表示される場合は、入力内容に誤りがないかご確認ください(接続テストをするときはインターネットに接続している必要があります)。

5 [確定]をクリックします。

[確定]をクリックすると、[ストレージアカウント]のリストに設定したアカウントが表示されます。

アカウントを複数設定する場合は[追加]をクリックします。

6 [同時ダウンロード数]を設定します。

同時ダウンロード数

設定できる数は1～10個です。

回線の状態などにもよりますが、ストレージ上に小容量ファイルがたくさんあるような場合、数を増やすことでダウンロードが早く終わる可能性があります。

逆にストレージ上にあるファイルが大容量ファイル中心の場合、同時にダウンロードする数が増えると帯域を分け合うことになるため、1つのファイルのダウンロードに時間がかかることになります。

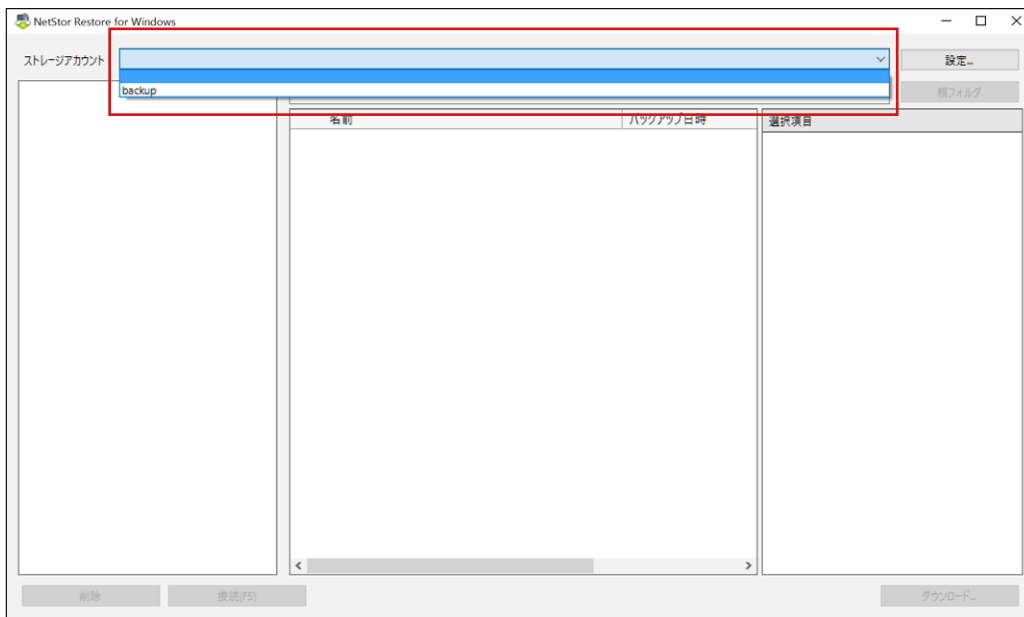
例えば、1GBのファイルが10個あり、帯域をフルに使って平等に分け合い、10分で終了するという前提で比べた場合、

- ・同時ダウンロード数が「1」のとき
→ 最初のファイルは1分でダウンロード完了
- ・同時ダウンロード数が「10」のとき
→ 最初のファイルは完了まで10分かかる

となりますので、順番に確実にダウンロードを終えたい場合は、同時ダウンロード数を減らす設定をおすすめします。

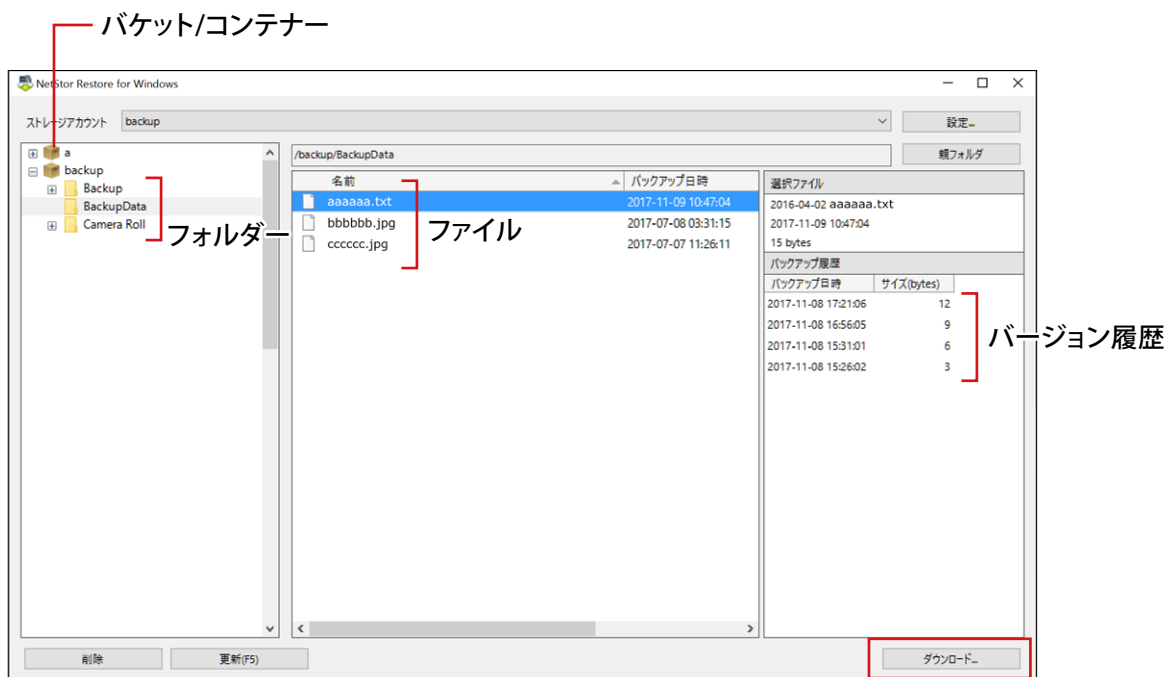
7 [閉じる] をクリックして、メイン画面に戻ります。

8 ストレージアカウントのプルダウンメニューをクリックし、作成したアカウントを選択します。



9 クラウドストレージ上のデータが表示されますので、フォルダーまたはファイルを選択して、[ダウンロード] をクリックします。

前のバージョンのファイルをダウンロードしたいときは、[バージョン履歴] のリストから選択して、[ダウンロード] をクリックします。

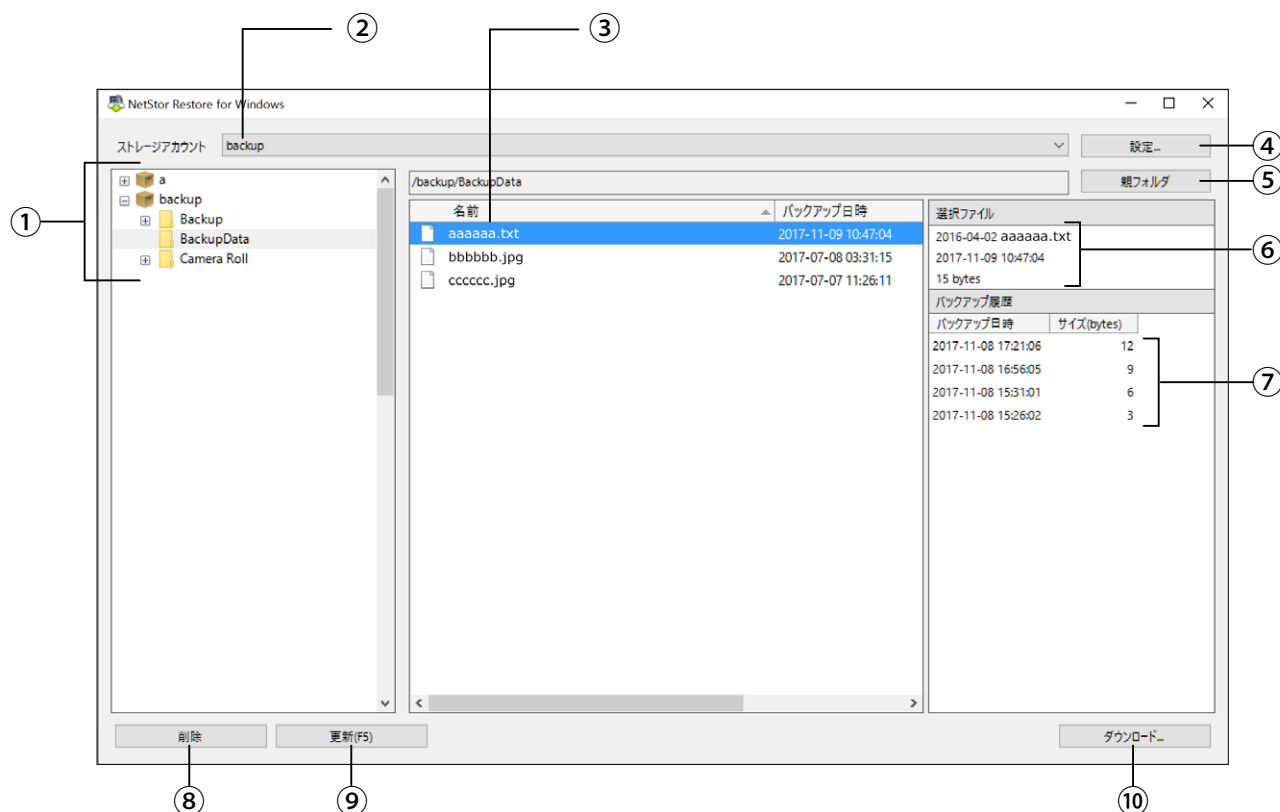


10 ファイルの保存先を選択し、[OK] をクリックします。

ダウンロードが始まります。

4.5

メイン画面について



① バケット / コンテナ一覧	Amazon S3 アカウントを選択している場合はバケット名、Microsoft Azure アカウントを選択している場合は、コンテナ名が表示されます。 クリックすると、格納されているフォルダーが表示されます。
② [ストレージアカウント]	アカウント名が表示されます。 クリックすると、プルダウンメニューからストレージアカウントを切り替えることができます。
③ ファイル一覧	選択しているフォルダー内のファイル一覧を表示します。
④ [設定]	ストレージアカウントを設定します。
⑤ [親フォルダー]	1 つ上のフォルダーのファイルを表示します。
⑥ [選択ファイル]	選択しているファイルの詳細情報が表示されます。
⑦ [バックアップ履歴]	選択しているファイルのバージョン履歴が表示されます。 クリックすると、選択できます。
⑧ [削除]	選択しているファイルやフォルダーを削除します。
⑨ [更新]	最新の情報に更新します。
⑩ [ダウンロード]	選択しているファイルやフォルダーをダウンロードします。 クリックすると、ダイアログボックスが表示されるので、保存先を指定します。

4.6 アンインストール方法

1 [プログラムのアンインストール] 画面を開きます。

(Windows10 の場合)

 を右クリックして、[コントロールパネル]→[プログラムのアンインストール]を選択します。

(Windows8 の場合)

画面右下にマウスカーソルを移動→チャームから[設定]→[コントロールパネル]→[プログラムのアンインストール]を選択します。

(Windows7 の場合)

[スタート]→[コントロールパネル]→[プログラムのアンインストール]を選択します。

2 プログラム一覧から[NetStorRestore]を選択して、[アンインストール]をクリックします。



3 確認画面が表示されますので、[はい]をクリックします。

アンインストールが開始されます。

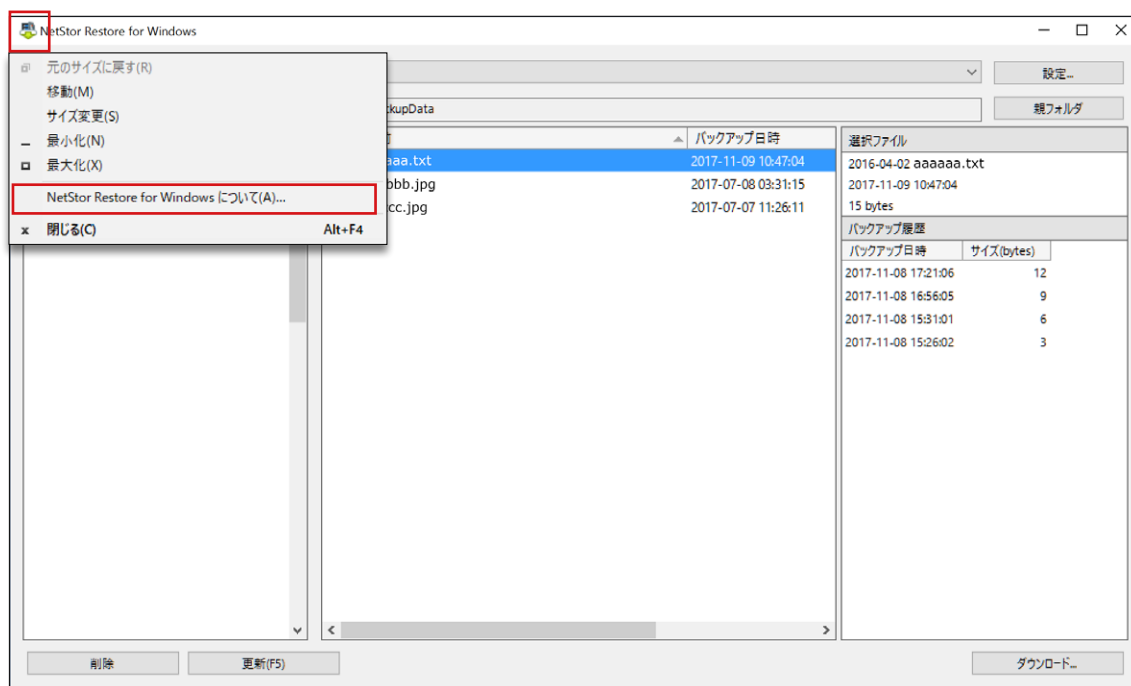
MEMO

アンインストール開始時に「ユーザーアカウント制御」画面が表示される場合があります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックしてください

アンインストールが完了すると、プログラム一覧から「NetStorRestore」が消去されます。

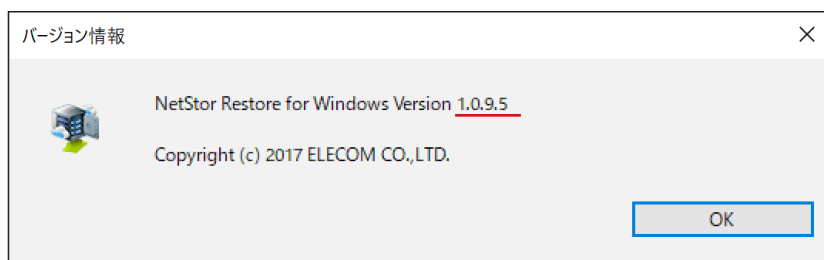
4.7 バージョンの確認方法

1 メイン画面左上のアイコンをクリックします。



2 表示されるメニューから [NetStor Restore for Windowsについて] をクリックします。

バージョン情報が表示されます。バージョン情報が表示されます。



バックアップ&リストアツール NetStor Backup for Windows / NetStor Backup for Linux / NetStor Restore for Windows
ユーザーズマニュアル

発行 エレコム株式会社